

令和 6 年度

3 年 生

授 業 展 開 計 画

滋賀県立甲西高等学校

目 次

	ページ
1 国 語	
(1) 論理国語 (文系)	1
(2) 論理国語 (理系)	3
(3) 文学国語 (文系)	5
(4) 文学国語 (理系)	7
(5) 古典探究	9
(6) 国語演習	1 1
(7) 古典演習	1 3
2 地歴・公民	
(1) 地理探究	1 5
(2) 日本史探究演習 1	1 7
(3) 世界史探究演習 1	1 9
(4) 日本史探究演習 2	2 1
(5) 世界史探究演習 2	2 3
(6) 政治・経済	2 5
3 数 学	
(1) 数学Ⅲ	2 7
(2) 数学C	3 1
(3) 数学演習文 1	3 5
(4) 数学演習文 3	3 7
4 理 科	
(1) 物 理	3 9
(2) 化 学	4 1
(3) 生物 (文系 3)	4 4
(3) 生物 (理系)	4 8
(3) 生物基礎演習	5 0
(4) 地学基礎演習	5 2
(5) 物理演習	5 4
(6) 生物演習	5 7
5 保健体育	
(1) 体 育	6 0
6 芸 術	
(1) 音楽芸術	6 2
(2) 素描・油彩	6 4
(3) 書道芸術	6 6
7 家 庭	
(1) ライフデザイン	6 8
8 外国語	
(1) 英語コミュニケーションⅢ	7 0
(2) 論理・表現Ⅲ	7 2
(3) 英語演習	7 4

令和6年度 国語科

科目名	論理国語		学年	類型・コース	単位数
			3	文系	2
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教材	教科書：「高等学校 論理国語」（第一学習社） 副教材：「即戦ゼミ 入試頻出 新国語問題総演習 四訂版」（桐原書店）、「新演習 現代文アチーブ3 四訂版」（桐原書店）、「2025 共通テスト対策 実力養成」（ランズ）、「新訂総合国語便覧」（第一学習社）、「錬成現代文2+」（尚文出版）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題、ノートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元名	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	24	評論 「なぜ多様性が必要か」 （福岡伸一）	・動的平衡という視点から生態系を捉える筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握する方法を学ぶ。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート ・週末課題
	5		評論 「いのちのかたち」 （西谷修）	・主張に説得力を持たせるための論展開を捉え、筆者の抱く「いのち」の概念について考察する。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する方法を学ぶ。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート ・週末課題
	6						

1 学期	7		評論 「リスク社会 とは何か」 (大澤真幸)	・リスク社会の特徴を捉え、そのような社会での人間のありようについて考える。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する方法を学ぶ。 ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する方法を学ぶ。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート ・週末課題
2 学期	9		評論「コスモポリタニズムの可能性」(河野哲也)	・「コスモポリタニズム」の定義や筆者の主張を理解し、グローバル社会に生きる者として問題意識を持つ。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 ・文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート
	10	36	評論 「目に見える制度と見えない制度」(中村雄二郎)	・筆者の論展開を支える文章表現上の工夫を理解して主張を捉え、身の回りの制度について考える。 ・文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める方法を学ぶ。 ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する方法を学ぶ。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート
	11		演習	・初見の文章を読み解き、出題されている問題について分析・検討する。 ・設問の意図を正確に捉え、解答を作成する。 ・意識的に根拠を探しながら問題を解き進める。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ワーク
	12						
3 学期	1		演習	・初見の文章を読み解き、出題されている問題について分析・検討する。 ・設問の意図を正確に捉え、解答を作成する。 ・意識的に根拠を探しながら問題を解き進める。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ワーク
	2	10					
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業中や家庭学習の課題には、間違いをおそれずに粘り強く取り組みましょう。言葉は覚えるだけではなく、活用して初めて自分の力となります。授業で学んだ評論の構成や表現上の工夫も、自分の意見文や課題作成に積極的に取り入れましょう。

論理的思考を鍛えるとともに、漢字や語句について意味・語源・間違えやすい所などを意識してしっかり覚えていくようにしましょう。高校生のうちに語彙を豊かにすると、表現の幅が広がります。

令和6年度 国語科

科目名	論理国語		学年	類型・コース	単位数
			3	理系	1
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教材	教科書：「高等学校 論理国語」（第一学習社） 副教材：「即戦ゼミ 入試頻出 新国語問題総演習 四訂版」（桐原書店）、「新演習 現代文アチーブ3 四訂版」（桐原書店）、「2025 共通テスト対策 実力養成」（Learn-S）、「新訂総合国語便覧」（第一学習社）、「錬成現代文2+」（尚文出版）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題、ノートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元名	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	12	評論 「なぜ多様性が必要か」 （福岡伸一）	・動的平衡という視点から生態系を捉える筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握する方法を学ぶ。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート ・週末課題
	5		評論 「いのちのかたち」 （西谷修）	・主張に説得力を持たせるための論展開を捉え、筆者の抱く「いのち」の概念について考察する。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する方法を学ぶ。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート ・週末課題
	6						

1 学期	7		評論 「リスク社会 とは何か」 (大澤真幸)	・リスク社会の特徴を捉え、そのような社会での人間のありようについて考える。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する方法を学ぶ。 ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する方法を学ぶ。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート ・週末課題
2 学期	9		評論「コスモポリタニズムの可能性」(河野哲也)	・「コスモポリタニズム」の定義や筆者の主張を理解し、グローバル社会に生きる者として問題意識を持つ。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 ・文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート
	10	18	評論 「目に見える制度と見えない制度」(中村雄二郎)	・筆者の論展開を支える文章表現上の工夫を理解して主張を捉え、身の回りの制度について考える。 ・文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める方法を学ぶ。 ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する方法を学ぶ。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート
	11		演習	・初見の文章を読み解き、出題されている問題について分析・検討する。 ・設問の意図を正確に捉え、解答を作成する。 ・意識的に根拠を探しながら問題を解き進める。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ワーク
3 学期	12						
	1	5	演習	・初見の文章を読み解き、出題されている問題について分析・検討する。 ・設問の意図を正確に捉え、解答を作成する。 ・意識的に根拠を探しながら問題を解き進める。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ワーク
	2						
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業中や家庭学習の課題には、間違いをおそれずに粘り強く取り組みましょう。言葉は覚えるだけでなく、活用して初めて自分の力となります。授業で学んだ評論の構成や表現上の工夫も、自分の意見文や課題作成に積極的に取り入れましょう。

論理的思考を鍛えるとともに、漢字や語句について意味・語源・間違えやすい所などを意識してしっかり覚えていくようにしましょう。高校生のうちに語彙を豊かにすると、表現の幅が広がります。

令和6年度 国語科

科目名	文学国語		学年	類型・コース	単位数
			3	文系	2
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教材	教科書：「高等学校 文学国語」(第一学習社) 副教材：「新演習 現代文アチーブ3 四訂版」(桐原書店)「即戦ゼミ 入試頻出 新国語問題総演習 四訂版」(桐原書店)、「読み・解き・覚える 新版 日本文学史必携」(第一学習社)、「新訂総合国語便覧」(第一学習社)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題、ノートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	24	随想 「わからないからおもしろい」(木内昇)	・「わからない」ことに対する青年と筆者の考えの差を通して、筆者や職業人の仕事に対する思いを理解する。 ・内容や構成、展開、場面設定や描写のしかた、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。 ・文学的な文章の種類や特徴について理解を深める。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート
	5		小説 「檸檬」(梶井基次郎)	・「私」の心の動きを作品注の表現に基づいてたどり、「檸檬」が「私」に及ぼした影響を捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学ぶとともに、作品の解釈をふまえて、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める姿勢を養う。 ・文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解する。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート
	6						
	7						

2 学 期	9		現代の詩 「足と心」(中 桐雅夫)	- 詩の構成を理解し、比喩表現が示す内容をつかみながら、作品にこめられた批判意識を読み取る。 - 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学ぶとともに、作品が成立した背景や他の作品との関係をふまえて解釈を深める姿勢を養う。 - 我が国の言語文化の特質について理解を深める。	- 小テスト - 定期考査	定期考査	ノート
	10	36	小説 「枯野抄」(芥 川龍之介)	- 師匠である松尾芭蕉の臨終に弟子たちがそれぞれに抱く心情を把握し、人生や他者に対する考察を深める。 - 内容や構成、展開、場面設定や描写のしかた、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。 - 他の作品と比較して、文体の特徴や効果について考察する方法を学ぶ。 - 作品に関連のある事項について調べ、その成果を文章にまとめたり発表したりする方法を学ぶ。 - 文学的な文章の種類や特徴について理解を深める。	- 小テスト - 定期考査	定期考査	ノート
	11		演習	初見の文章を実力で読み解き、出題されている問題について分析・検討する。	- 小テスト - 定期考査	定期考査	ワーク
	12						
3 学 期	1	10	演習	初見の文章を実力で読み解き、出題されている問題について分析・検討する。	- 小テスト - 定期考査	定期考査	ワーク
	2						
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

新しい「自己」との出会い、恋愛や友情といった人間関係、アイデンティティ、人間存在、生や死への不安、文学とは、どこまでも人間に寄り添うものです。人は生きていく中で、膨大な体験をしてきます。見たり、聞いたりしたそのすべては体験です。しかし、人生で体験できることには限りがあります。文学を通して、様々な体験や場面、考え方、心情に触れ、自分の経験とすることで、人間や世界を考え、自らの生に意味を見出す手助けとしてください。また、いつでも「手元に読みかけの本を持っている」と言えるように、読書習慣をつけましょう。その時、知らない漢字や語句をすぐに調べる習慣をつけると、楽しめる本も増えていきます。

令和6年度 国語科

科目名	文学国語		学年	類型・コース	単位数
			3	理系	1
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教材	教科書：「高等学校 文学国語」（第一学習社） 副教材：「新演習 現代文アチーブ3 四訂版」（桐原書店）「即戦ゼミ 入試頻出 新国語問題総演習 四訂版」（桐原書店）、「読み・解き・覚える 新版 日本文学史必携」（第一学習社）、「新訂総合国語便覧」（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題、ノートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	12	随想 「わからないからおもしろい」（木内昇）	・「わからない」ことに対する青年と筆者の考えの差を通して、筆者や職業人の仕事に対する思いを理解する。 ・内容や構成、展開、場面設定や描写のしかた、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。 ・文学的な文章の種類や特徴について理解を深める。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート
	5		小説 「檸檬」（梶井基次郎）	・「私」の心の動きを作品注の表現に基づいてたどり、「檸檬」が「私」に及ぼした影響を捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学ぶとともに、作品の解釈をふまえて、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める姿勢を養う。 ・文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解する。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート
	6						
	7						

2 学期	9		現代の詩 「足と心」(中 桐雅夫)	- 詩の構成を理解し、比喻表現が示す内容をつかみながら、作品にこめられた批判意識を読み取る。 - 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学ぶとともに、作品が成立した背景や他の作品との関係をふまえて解釈を深める姿勢を養う。 - 我が国の言語文化の特質について理解を深める。	- 小テスト - 定期考査	定期考査	ノート
	10		小説 「枯野抄」(芥 川龍之介)	- 師匠である松尾芭蕉の臨終に弟子たちがそれぞれに抱く心情を把握し、人生や他者に対する考察を深める。 - 内容や構成、展開、場面設定や描写のしかた、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。 - 他の作品と比較して、文体の特徴や効果について考察する方法を学ぶ。 - 作品に関連のある事項について調べ、その成果を文章にまとめたり発表したりする方法を学ぶ。 - 文学的な文章の種類や特徴について理解を深める。	- 小テスト - 定期考査	定期考査	ノート
	11		演習	初見の文章を実力で読み解き、出題されている問題について分析・検討する。	- 小テスト - 定期考査	定期考査	ワーク
	12						
3 学期	1		演習	初見の文章を実力で読み解き、出題されている問題について分析・検討する。	- 小テスト - 定期考査	定期考査	ワーク
	2	5					
	3						

担当者からのメッセージ (学習方法など)

新しい「自己」との出会い、恋愛や友情といった人間関係、アイデンティティ、人間存在、生や死への不安、文学とは、どこまでも人間に寄り添うものです。人は生きていく中で、膨大な体験をしてきます。見たり、聞いたりしたそのすべては体験です。しかし、人生で体験できることには限りがあります。文学を通して、様々な体験や場面、考え方、心情に触れ、自分の経験とすることで、人間や世界を考え、自らの生に意味を見出す手助けとしてください。また、いつでも「手元に読みかけの本を持っている」と言えるように、読書習慣をつけましょう。その時、知らない漢字や語句をすぐに調べる習慣をつけると、楽しめる本も増えていきます。

令和6年度 国語科

科目名	古典探究		学年	類型・コース	単位数
			3	文系1・文系2	3
学習の目標	・1・2年生で学習した文法事項・古語・古典常識についてさらに理解を深める。 ・漢文の構文・句法を習得して、正確に読解する力をつける。 ・様々な作品を通して、人間の普遍的な感情に触れ、視野を広げ、人生を豊かにする。 ・作品を通して考えたこと、感じたことを、話し合いを通して共有することで、読みを深める。 ・入試に対応できる力を養う。				
使用教材	教科書：「高等学校古典探究 古文編」（第一学習社）、「高等学校古典探究 漢文編」（第一学習社） 副教材：「基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版 演習ノート」（桐原書店）、「私大マーク対応古文 過去問題集」（桐原書店） ※文系1のみ：「よむナビ漢文 必修編2」（いっずな書店）				
評価	評価法	予習の状況、授業中の態度、小テスト、提出物等を加味し、定期考査を中心に、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度についての3つの観点から総合的に評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	
		b	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
一学期	4	6	説話『発心集』「叡実、路頭の病者を憐れむ事」	仏教説話に取り上げられた人物の論理と行動を読み解き、編者が語り伝えようとした価値について考察する	定期考査 小テスト	定期考査	ノート提出 小テスト
	5	6	古典文法基礎の復習	・文法1 基本的な文法事項の復習 ・文法2 助動詞の意味と判別 ・本文の叙述を正確に読み取り、筆者の感性と考え方を読み取る。	定期考査 小テスト		
	6	8	随筆『枕草子』「宮に初めて参りたるころ」	・宮廷の生活・教養・文化について理解を深める ・読解に必要な語彙や文法を習得し、正確に文意を理解する。	定期考査 小テスト	定期考査	ノート提出 小テスト
	7	4	「雪のいと高う降りたるを」	・敬語の整理と定着			
		12	物語『源氏物語』「若紫」	・2年時に学習した「桐壺」に続いて長編物語野中の、人物造形や心理描写のを味わう ・和歌の修辞と役割・読解・鑑賞 ・敬語の整理・定着 ・助動詞の復習・定着・和歌の役割について理解する。	定期考査 小テスト	定期考査	ノート提出 小テスト

二学期	9	14	物語『源氏物語』 「夕顔の死」		定期 考査 小テスト	定期 考査	ノート 提出 小テスト
	10	8	評論『無名抄』 「深草の里」	・俊恵の評価を手がかりに和歌の読解と鑑賞の仕方を習得する。 ・秀歌についての主張を踏まえて和歌を鑑賞する。	定期 考査 小テスト	定期 考査	ノート 提出 小テスト
	11	12	物語『大鏡』「菅原道真の左遷」	歴史に残された人々の姿に触れる 和歌や漢詩に表された道真の思いに触れる	定期 考査 小テスト	定期 考査	ノート 提出 小テスト
	11	8	論語 莊子 漢詩	・漢文の構造を理解して白文で読み下し、漢文独特のリズムを感じとる。 ・仁を目指す修養と学問について読み、孔子の思想について考える。 ・老荘思想について考え、儒教との違いについて理解する。 ・漢詩の基本事項の習得・時間を意識しながら、問題演習に取り組み、問題について分析・検討する。 ・古文、漢文のテキストにあたり、これまでに学んだ知識・技能を用いて読解し、広く古典文学の世界を味わい、我が国の文化の伝統的価値を理解し、自らの思考を深める。	定期 考査 小テスト	定期 考査	ノート 提出
	12	12	問題演習に取り組む		定期 考査 小テスト	定期 考査	提出 小テスト
三学期	1		問題演習に取り組む				
	2						
	3	15	【年間を通して】	・毎回の授業で単語テストを実施する。 ・授業の終わりに学習内容を確認なものとするために数行で簡潔にまとめるとともに、自らの課題を把握して、必要な学習に取り組む姿勢を養う。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

・必ず予習をして、授業に臨んでください。予習を前提に授業を進めます。ガイドなどを写しても、作業にしかありません。必ず自分で取り組むこと。

・一年生で学んだ文法分野の理解を深めて下さい。用言・助動詞・助詞・副詞などの理解が古典学習の基礎です。文法分野は常に復習をして定着をめざして下さい。

・文学史分野は、丸暗記ではなく本文の背景として理解を深めたり、様々な作品においても関連してくる事項ですので、確実に理解して下さい。文学史の知識が、本文理解を助ける鍵となります。

・「ニューエイジ古文」など演習問題は、自力で取り組んだ上で、解答を熟読して下さい。重要古語については「古文単語」で確認するなど、それぞれ関連させて学習しましょう。

令和6年度 国語科

科目名	国語演習		学年	類型・コース	単位数
			3	文系2・文系3	2
学習の目標	・漢字、語彙、慣用句、四字熟語、文学史など、基本的な知識を身につける。 ・問題集を中心に演習を行い、読解力を養成する。 ・設問を通じて、問題文の要約を行い、要約する力や記述する力を身につける。 ・小説においては、場面・登場人物の心理を精密に把握し、比喩などのレトリックにも注意しながら、作品のテーマについて正確に理解できる能力を身につける。 ・評論においては、論理的な文章の構成や展開に慣れ、指示語や語彙の問題を確実におさえながら、筆者の論旨に関する問題を正確に見極め、記述できる能力を身につける。				
使用教材	「パスポート国語必携 国語常識の演習と確認 四訂版」(桐原書店) 「私大マーク対応 現代文 過去問題集」(桐原書店)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、ノートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元名	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	24	表現演習	・自己 PR・志望動機等について構成を考え、表現し、発表するという演習を行う。 ・「パスポート国語必携 国語常識の演習と確認 四訂版」「国語便覧」「文学史必携」を用いて、漢字・語彙・慣用句・熟語・文学史事項などを学習する。 ・「私大マーク対応 現代文 過去問題集」 <u>1</u> ～ <u>5</u> 」を用いた問題演習を行う。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート
	5		漢字・語彙・慣用句・四字熟語・文学史				
	6		問題演習				
	7						

2 学 期	9	36	問題演習	・「私大マーク対応 現代文 過去問題集[6]～ [20]」を用いた問題演習を行う。 ・並行して、漢字・語彙・慣用句・四字熟語・文学史の 実践問題に取り組む。 ・問題演習に取り組む。 ・基礎事項全般の確認と問題演習を行う。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ノート
	10		漢字・語彙・慣用句・四字熟語				
	11		文学史				
	12		問題演習				
3 学 期	1	10	問題演習	・基礎事項全般の確認と問題演習を行う。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・ワーク
	2						
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

読解力や語彙力、記述・論述力がある程度確立された上で、難解な文章に直面した時、それらをどのように総合的に活用するか、あるいは設問を解く手がかりの発見の方法など、具体的なノウハウを習得するのが、国語演習の授業の目標とところです。

そのためには、問題文の本文を読み、設問に取り組む上で、自分の思考の過程、その答えに至った道筋をきちんと確認しておくことが重要です。解答・解説時には、なぜそのような正答になるのか、自分の答えはどこで間違ってしまったのかを振り返り、次回に活かすことが、自分の読解力の向上につながります。また、現代文では、その問題文の中に書かれている論旨や主題も、自分が人間とその営みについて見識を深める意味では大変参考になるはずです。

表現分野についても、文章を組み立て、書くという姿勢を忘れないでください。授業中や家庭学習の課題には、間違いをおそれずに粘り強く取り組みましょう。言葉は覚えるだけではなく、活用して初めて自分の力となります。授業で学んだ評論の構成や表現上の工夫も、自分の意見文や課題作成に積極的に取り入れましょう。

論理的思考を鍛えるとともに、漢字や語句について意味・語源・間違いやすい所などを意識してしっかり覚えていくようにしましょう。高校生のうちに語彙を豊かにすると、表現の幅が広がります。

令和6年度 国語科

科目名	古典演習		学年	類型・コース	単位数
			3	理系・選択	2
学習の目標	・古文単語、古典文法、古典常識、漢文の知識など、基本的な知識を身につける。 ・問題集を中心に演習を行い、読解力の養成をする。 ・設問を通じて問に対する答え方を身につける。				
使用教材	「新訂総合国語便覧」（第一学習社） 「漢文必携」（桐原書店） 「古文単語 3 1 5」（桐原書店）「体系古典文法」（数研出版） 「共通テスト国語対策問題集 標準から実践へ 古典編」（桐原書店） 「共通テスト 重要問題集 古典」（ラーンズ）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、プリントで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	古典読解に必要な知識や技能を身につけている。	
		b	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元名	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	6	- 基本知識の確認 - 問題演習	「古文単語315」「古典文法」を用いて基礎知識確認をする。 「漢文必携」を用いて、漢文を読むための基礎的な知識を確認する。 「共通テスト国語対策問題集 標準から実践へ 古典編」を用いた問題演習を行う。	- 小テスト - 定期考査	定期考査	プリント
	5	8					
	6	8					
	7	2					

2 学期	9	12	問題演習	・「共通テスト 重要問題集」を用いた問題演習を行う。 ・並行して、古文単語、古典文法、漢文の基礎知識の実践問題に取り組む。 ・問題演習に取り組む。 ・基礎事項全般の確認と問題演習を行う。	・小テスト ・定期考査	・定期考査	・プリント
	10	10					
	11	10					
	12	4					
3 学期	1	10	問題演習	・基礎事項全般の確認と問題演習を行う。	・小テスト	・小テスト	・プリント
	2						
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

読解力や語彙力、記述・論述力がある程度確立された上で、難解な文章に直面した時、それらをどのように総合的に活用するか、あるいは設問を解く手がかりの発見の方法など、具体的なノウハウを習得するのが、国語演習の授業の目標とするところです。

そのためには、問題文の本文を読み、設問に取り組む上で、自分の思考の過程、その答えに至った道筋をきちんと確認しておくことが重要です。解答・解説時には、なぜそのような正答になるのか、自分の答えはどこで間違ってしまったのかを振り返り、次回に活かすことが、自分の読解力の向上につながります。また、現代文では、その問題文の中に書かれている論旨や主題も、自分が人間とその営みについて見識を深める意味では大変参考になるはずです。

表現分野についても、文章を組み立て、書くという姿勢を忘れないでください。授業中や家庭学習の課題には、間違いをおそれずに粘り強く取り組みましょう。言葉は覚えるだけではなく、活用して初めて自分の力となります。授業で学んだ評論の構成や表現上の工夫も、自分の意見文や課題作成に積極的に取り入れましょう。

論理的思考を鍛えるとともに、漢字や語句について意味・語源・間違いやすい所などを意識してしっかり覚えていくようにしましょう。高校生のうちに語彙を豊かにすると、表現の幅が広がります。

令和6年度 地理歴史科

科目名	地理探究		学年	類型・コース	単位数
			3	理系	3
学習の目標	現代世界の地理的な諸課題について地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、世界の人々の相互理解が一層深められるような視点を身に付ける。				
使用教材	教科書：「新詳地理探究」（帝国書院）、「新詳高等地図」（帝国書院） 副教材：「新詳地理資料 COMPLETE 2024」（帝国書院）、 「新詳地理探究 演習ノート」（帝国書院）				
評価	評価法	定期考査・ワークノート・レポート・発表などから総合的に判断して評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	・世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。 ・地図や地理情報システムなどを用いてさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ・考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 ・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などが深まっている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4 5	18	第Ⅰ部 1章 自然環境 2章 資源と産業	1節 地形 2節 気候 3節 日本の自然環境 4節 地球環境問題 1節 農林水産業 2節 食料問題 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源エネルギー問題 5節 工業 6節 第3次産業	考査	考査	ワークノート

1 学期	6	18	3 章 交通通信と 観光貿易	1 節 交通・通信 2 節 観光 3 節 現代世界の貿易と経済圏	考查	考查 レポート	
	7		4 章 人口、村落・ 都市	1 節 人口 2 節 人口問題 3 節 村落と都市 4 節 都市・居住問題			
2 学期	9	54	5 章 生活文化、 民族・宗教 第Ⅲ部	1 節 衣食住 2 節 民族宗教と民族問題 3 節 国家の領域と領土問題	考查	考查 発表	ワーク シート レポート
	10		1 章 現代世界の 地域区分	1 節 地域区分			
	11		2 章 現代世界の 諸地域	1 節 中国 2 節 韓国 3 節 ASEAN諸国 4 節 インド 5 節 西アジアと中央アジア 6 節 北アフリカとサハラ以南の アフリカ 7 節 EU諸国 8 節 ロシア 9 節 アメリカ合衆国 10 節 ラテンアメリカ 11 節 オーストラリアとニュージーランド			
	12				考查	考查	
3 学期	1 2 3	15	第3部 第1章 持続可能な 国土像の探 究	課題の把握・追求・解決		レポ ート	レポ ート 発表

担当者からのメッセージ（学習方法など）

教科書・地図帳・資料集の3教材を用いて授業を展開するので、多くの基礎知識をきちんと身に付けて臨んでください。ワークをやることで地理的知識を定着させましょう。
現代社会の要素も多く、様々な問題をいかに平面的に、横のつながりで見ることができるかが、地理的認識には欠かせません。そのためにも日頃から地図帳を携帯し、眺めることが大切です。

令和6年度 地理歴史科

科目名	日本史探究演習 1		学年	類型・コース	単位数
			3	文系	4
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材	教科書：詳説日本史（山川出版社） 副教材：新詳日本史（浜島書店）、進研ウィンステップ日本史探究（ラーンズ）				
評価	評価法	課題考査・定期考査、授業課題・提出物、授業態度等を総合して評価します。1学期、2学期、3学期の成績を総合的に判断して、年間の学習成績とします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	
		b	思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	48	第9章	幕藩体制の成立と展開	考査	考査	ワークシート
	5		1節	幕藩体制の構造			
	6		2節	幕政の安定			
	7		3節	経済の発展			
	8		4節	経済の安定			
	9		5節	元禄文化			
	10		第10章	幕藩体制の動揺	考査	考査	ワークシート レポート
	11		1節	幕政の改革			
	12		2節	宝暦・天明の文化			
	1		3節	幕府の衰退と近代への道			
	2		4説	化政文化			
	3		第11章	近世から近代へ			
	4		1章	開国と幕末の動乱			
	5		2章	幕府の滅亡と新政府の発足			

2 学 期	9	72	第 12 章	近代国家の成立	考 査	考 査	ワー ク ノ ー ト
	10		1 節	明治維新と富国強兵			
	11		2 節	立憲国家の成立			
	12		第 13 章	近代国家の展開			
			1 節	日清・日露戦争と国際関係	考 査	考 査 レ ポ ー ト	ワー ク ノ ー ト レ ポ ー ト
			2 節	第一次世界大戦と日本			
			3 節	ワシントン体制			
			第 14 章	近代の産業の生活			
			1 節	近代産業の発展			
			2 節	近代文化の発達			
			3 節	市民生活の変容と大衆文化			
			第 15 章	恐慌と第二次世界大戦			
			1 節	恐慌の時代			
			2 節	軍部の台頭			
			3 節	第二次世界大戦			
3 学 期		20	第 16 章	占領下の日本	考 査	レ ポ ー ト	ワー ク ノ ー ト
	1		1 節	占領と改革			
	2		2 節	冷戦の開始と講和			
	3		第 17 章	高度成長の時代			
			1 節	55 年体制			
			2 節	経済復興から高度経済成長へ			
			第 18 章	激動する世界と日本	考 査	考 査	ワー ク ノ ー ト
			1 節	経済大国への道			
			2 節	冷戦の終結と日本社会の変容			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

【授業】様々な歴史上の出来事に対して、「なぜ？」と疑問を持つことが大切です。また、歴史上の出来事に対する考え方は人それぞれです。授業中は、教員と、そしてクラスメイトと積極的に対話をおこなうようにしていきましょう。

【家庭学習】まずは、時代のイメージを大きくつかんだうえで、様々な出来事の流れ・つながりを押さえましょう。次に、重要ポイントを図や表、地図にまとめながらインプットしていきましょう。最後に、問題を解いて知識の定着度を確認しましょう。

令和6年度 地理歴史科

科目名	世界史探究演習 1		学年	類型・コース	単位数
			3	文系	4
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動・演習を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。				
使用教材	教科書：新詳世界史探究（帝国書院） 副教材：進研ウィンステップ世界史探究（ランズ）、グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査・ワークノート・レポート・発表などから総合的に判断して、評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につけるようにする。	
		b	思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目 ・単 元	学 習 内 容	評価方法				
					a	b	c		
1 学期	4	48	3 部	諸地域の交流・再編	考查	考查	ワーク ノート		
	5		3 章	主権国家体制の成立と交易の拡大					
			1 節	ルネサンスと宗教改革					
			2 節	主権国家の形成と「17世紀の危機」					
			3 節	東欧諸国の台頭とヨーロッパ文化の成熟					
	6		4 節	イギリスとフランスの覇権争いと大西洋三角貿易					
			4 部	諸地域の結合・変容				発表	発表
			1 章	環太平洋革命～工業文明と国民国家の誕生					
			1 節	世界で最初の工業化					
	2 節		アメリカの独立						
	7		3 節	フランス革命と国民国家の誕生	考查	考查	ワーク ノート		
			4 節	ラテンアメリカへの革命の波及					
			2 章	イギリスの覇権と欧米の国民国家建設					
			1 節	イギリスの覇権と自由主義					
			2 節	ヨーロッパに広がる国民国家					
			3 節	アメリカ合衆国の拡大と国民統合					
3 章		世界の一体化の進展とアジアの変容	レポート	レポート					
1 節		イスラーム王朝の解体と変容							
2 節	南・東南アジアの変容								
	3 節	東アジア諸国の模索と変容							

2 学 期	9		4 章	世界の一体化の完成とその影響			
	10		1 節	帝国主義と世界分割競争	考 査	考 査	ワ ー ク シ ー ト
			2 節	アジア知識人による体制改革の試み			
			5 章	世界大戦の時代			
	11		1 節	第一次世界大戦と社会主義革命		発 表	発 表
			2 節	第一次世界大戦とアジアのナショナリズムの展開			
			3 節	大衆社会の到来とファシズムの出現			
			4 節	第二次世界大戦とその惨禍			
			6 章	戦後の国際秩序と冷戦			
	12	72	5 部	地球世界の課題	考 査		
			1 章	冷戦の展開と平和の模索		考 査	ワ ー ク シ ー ト
			1 節	集団安全保障と冷戦の展開			
			2 節	多極化の始まり			
			3 節	新しい国際秩序を求めて		レ ポ ー ト	レ ポ ー ト
3 学 期	1		2 章	グローバル化する国際経済とその課題	考 査	発 表	発 表
			1 節	冷戦下の経済秩序と格差			
			2 節	グローバル経済の光と影			
	2	20	3 章	情報と科学技術によって結びつく世界			
			4 章	地球世界の課題の探究		考 査 レ ポ ー ト	ワ ー ク シ ー ト レ ポ ー ト
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

【授業】様々な歴史上の出来事に対して、「なぜ？」と疑問を持つことが大切です。また、歴史上の出来事に対する考え方は人それぞれです。授業中は、教員と、そしてクラスメイトと積極的に対話をおこなうようにしていきましょう。

【家庭学習】まずは、時代のイメージを大きくつかんだうえで、様々な出来事の流れ・つながりを押さえましょう。次に、重要ポイントを図や表、地図にまとめながらインプットしていきましょう。最後に、問題を解いて知識の定着度を確認しましょう。

令和6年度 地理歴史科

科目名	日本史探究演習 2		学年	類型・コース	単位数
			3	文系 2	2
学習の目標	2 年次の学習内容に加え、「日本史探究 1」での学習内容をふまえ、演習を通じて社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材	「ゼミナール日本史」（浜島書店） 「詳説日本史」（山川出版社）・「新詳日本史」（浜島書店） も参考にする。				
評価	評価法	課題考査・定期考査、授業課題・提出物、授業態度等を総合して評価します。1 学期、2 学期、3 学期の成績を総合的に判断して、年間の学習成績とします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	
		b	思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、C の 3 段階）および評定（1 ～ 5 の 5 段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	24	近代日本の確立	26 開国と幕末の動乱 27 明治維新と富国強兵 28 殖産興業と明治初期の外交 29 立憲国家の成立	考査	考査	ワークシート
	5			30 条約改正と日清戦争 31 日露戦争と国際関係 32 近代産業の発展 33 近代文化の発達			
	6			34 第一次世界大戦と日本 35 ワシントン体制 36 市民文化と恐慌の時代 37 軍部の台頭 38 日中戦争と戦時下の文化 39 太平洋戦争	考査	考査 レポート	ワークシート レポート
	7			40 占領と改革 41 冷戦の開始と講和 42 55年体制 43 経済復興から高度成長へ 44 激動する世界と日本			

2 学期	9	36	古代国家の成立	1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権 4 飛鳥の朝廷と文化 5 律令国家の成立 6 奈良時代の政治と文化 7 平安初期の政治と文化 8 摂関政治と国風文化 9 荘園と武士	考查	考查	ワーク ノート
	10		中世日本の確立	10 院政と平氏の台頭 11 鎌倉幕府の成立と執権政治 12 蒙古襲来と幕府の衰退 13 鎌倉文化 14 室町幕府の成立と東アジアとの交易 15 幕府の衰退と庶民の台頭 16 室町文化と戦国大名の登場	考查	考查	ワーク ノート レポート
	11					レポート	
	12						
3 学期	1	10	近世日本の確立	17 織豊政権と桃山文化 18 幕藩体制の成立 19 鎖国と寛永期の文化 20 百姓・町人の統制 21 幕政の安定と産業の発達 22 経済の発展と元禄文化 23 幕政の改革 24 宝暦・天明期の文化と寛政の改革 25 幕府の衰退と化政文化	考查	レポート	レポート
	2				考查	考查	ワーク ノート
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

【授業】様々な歴史上の出来事に対して、「なぜ？」と疑問を持つことが大切です。また、歴史上の出来事に対する考え方は人それぞれです。授業中は、教員と、そしてクラスメイトと積極的に対話をおこなうようにしていきましょう。

【家庭学習】まずは、時代のイメージを大きくつかんだうえで、様々な出来事の流れ・つながりを押さえましょう。次に、重要ポイントを図や表、地図にまとめながらインプットしていきましょう。最後に、問題を解いて知識の定着度を確認しましょう。

科目名	世界史探究演習 2		学年	類型・コース	単位数
			3	文系 2	2
学習の目標	2年次の「世界史探究」で学習した歴史に関わる事象を、地域間・国家間の相互関連（＝ヨコのつながり）に着目して理解できるようになる。				
使用教材	要点整理ゼミナール世界史（浜島書店）・グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査・ワーク・レポートなどから総合的に判断して評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4		古代（諸地域の歴史的特質の形成）	1 文明の発生 2 古代オリエント世界 3 東アジア世界の形成 4 魏晉南北朝時代と隋・唐帝国 5 古代南・東南アジア世界 6 イラン諸国家とギリシア人の都市国家 7 ヘレニズム時代とギリシア文化 8 ローマの発展とキリスト教	考査	考査	ワーク
	5						
	6	24		9 イスラーム教の成立とイスラーム帝国 10 ヨーロッパ世界の形成 11 イスラーム世界の伝播① 12 イスラーム世界の伝播② 13 東西ヨーロッパ世界の展開 14 西ヨーロッパ世界の変容 15 宋の時代 16 モンゴル帝国			
	7		中世～近世（諸地域の交流・再編）		考査	考査	ワーク
						レポート	レポート

2 学 期	9	36	近世～近代（諸地域の交流・再編）	1 7 明の時代 1 8 ヨーロッパの海洋進出 1 9 イスラーム諸帝国の繁栄 2 0 清の時代 2 1 ルネサンスと宗教改革 2 2 主権国家体制の成立① 2 3 主権国家体制の成立② 2 4 主権国家体制の成立③ 2 5 産業革命とアメリカ合衆国の独立 2 6 フランス革命とナポレオン 2 7 ウィーン体制とヨーロッパの変動	考 査	考 査	ワ ー ク
	10		近代（諸地域の統合・変容）				
	11			2 8 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 2 9 新たな国民国家の成立とビスマルク体制 3 0 アメリカの発展と 19 世紀の文化 3 1 列強のアジア進出① 3 2 列強のアジア進出② 3 3 帝国主義と世界分割 3 4 世界分割の進展 3 5 日露戦争とアジアの民族運動 3 6 第一次世界大戦とロシア革命 3 7 ヴェルサイユ・ワシントン体制 3 8 アジア・アフリカの民族運動			
	12				考 査	考 査	ワ ー ク
3 学 期	1	10	近代（諸地域の統合・変容）	3 9 世界恐慌とファシズムの台頭 4 0 ファシズム諸国の攻勢と日中戦争 4 1 第二次世界大戦 4 2 冷戦の始まり・戦後の中国 4 3 アジア諸国の独立 4 4 冷戦の展開	小 テ ス ト	レ ポ ー ト	レ ポ ー ト
	2		現代（地球世界の課題）				
	3				小 テ ス ト	小 テ ス ト	ワ ー ク

担当者からのメッセージ（学習方法など）

【授業】様々な歴史上の出来事に対して、「なぜ？」と疑問を持つことが大切です。また、歴史上の出来事に対する考え方は人それぞれです。授業中は、教員と、そしてクラスメイトと積極的に対話をおこなうようにしていきましょう。

【家庭学習】まずは、時代のイメージを大きくつかんだうえで、様々な出来事の流れ・つながりを押さえましょう。次に、重要ポイントを図や表、地図にまとめながらインプットしていきましょう。最後に、問題を解いて知識の定着度を確認しましょう。

令和6年度 公民科

科目名	政治・経済		学年	類型・コース	単位数
			3	文系2	2
学習の目標	現代の政治、現代の経済を学習することで、現代社会のさまざまな諸課題について理解し、われわれがどのようにその諸課題を克服していくかを考える。また、日常生活の中で時事問題に興味関心を持ち、現代を生きる日本国民として、今後の日本の在り方について考える。				
使用教材	教科書：「最新 政治経済」（実教出版） 副教材：「最新 政治経済 演習ノート」（実教出版）				
評価	評価法	定期考査・ワークノート・レポート・発表などから総合的に判断して評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	政治・経済などに関わる基本的な用語や概念を理解している。諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめられる。	
		b	思考・判断・表現	理解した概念やまとめた情報を使って、多面的・多角的に考察し、解決に向けて公正に判断することができる。自分の考えを効果的に説明し、議論して合意を形成することができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	民主主義社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	24	現代日本の政治	民主政治の成立 基本原理 しくみと課題 世界の主な政治制度	考査	レポート 考査	ワーク ノート
	5		現代国家と民主政治	日本国憲法の成立 基本原理 自由に生きる権利 平等に生きる権利 社会権と参政権・請求権 新しい人権 人権の広がり と 公共の福祉			
	6		日本国憲法と基本的人権	政治機構と国会 内閣と行政機能の拡大 公正な裁判の保障 地方自治と住民福祉	考査	レポート 考査	ワーク ノート
	7		日本の政治制度と政治の参加	政党政治 選挙制度 世論と政治参加 国際社会と国際法 国際社会の変化 国際連合と国際協力 こんにちの国際政治 人権民族問題 軍拡競争から軍縮へ 日本の外交と国際社会での役割			

2 学期	9	36	現代日本の経済 現代の経済社会 現代の日本経済と 福祉の向上	経済活動の意義 変容 経済主体と市場の働き 企業の役割 国民所得 経済成長と国民の福祉 金融の役割 日本銀行の役割 財政の役割と租税 日本の財政の課題 日本経済の成長と課題 中小企業と農業 消費者問題 公害防止と環境保全 労働問題と労働者の権利 こんにちの労働問題 社会保障の役割と課題	考查	レポ ート 考查	ワー ク ノート
	10				考查	レポ ート 考查	ワー ク ノート
	11		現代の国際経済 国際経済理論 国際経済の動向と 課題	国際経済の動向 新興国の台頭 経済のグローバル化と ICT でかわる世界経済 発展途上国の課題と展望 地球環境問題、資源エネルギー問題 経済協力と日本の役割			
	12						
3 学期	1	10	現代日本における 諸課題も 探究	持続可能な地域社会のあり方を考える 地域における防災を考える 財政健全化を考える 起業を考える 持続可能な農業を考える ワークライフバランスの実現を考える 持続可能な福祉社会の実現を考える		レポ ート	レポ ート
	2		国際社会における 諸課題の 探究	難民問題を考える 外国人労働者との共生を考える 自動車運転技術を考える 地球環境問題資源エネルギー問題を考える 国際経済格差の是正と国際協力を考える 持続可能な平和のあり方を考える			
	3			探究 の中から選択し学習			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・評価は定期考查を中心とするが、さまざまな要素を総合するので、授業に取り組む姿勢、提出物、出席なども気をつけるようにして下さい。
- ・授業の中で、時事ニュースについても取り上げる予定をしています。従って、新聞やニュースなどから多くの時事ニュースに興味・関心を持つようにしましょう。
- ・私たちの創る日本の未来について常に考えておきましょう。
- ・現代社会に起こっている様々な社会問題について、自分なりの意見が言えるように自分自身の考えを持っておきましょう。
- ・政治経済を学び、社会と自己を見つめられるようになりましょう。

令和6年度 数学科

科目名	数学Ⅲ		学年	類型・コース	単位数
			3	理系	4
学習の目標	極限，数学Ⅱの内容をさらに発展、拡充させた極限、微分法及び積分法についての理解を深める。将来、数学が必要な専門分野に進もうとする生徒や数学を深く学ぼうとする生徒の知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書：新編 数学Ⅲ（数研出版） 副教材：新課程 基本と演習テーマ 数学Ⅲ（数研出版） チャート式 解法と演習 数学Ⅲ＋C（数研出版）				
評価	評価法	定期考査、確認テスト、課題考査、課題（ワーク）やレポート等の提出物、振り返りシート、学習活動への取り組み状況を踏まえて、観点別評価を行い、総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	極限や微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	「数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察する力」、「関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力」、「関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力」、「関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力」を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	「数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度」、「粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度」、「問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度」や創造性の基礎を身に付けている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月	20	第1章 関数	第1節 分数関数 1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数 分数関数や無理関数の性質を理解し、それを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また、関数の一般的な性質として逆関数や合成関数などについて理解し、事象の考察に活用できるようにする。	確認テスト		振り返りシート
	5月				中間考査	中間考査	ワーク

2 学 期	6 月	28	第2章 極限	第1節 数列の極限 1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数 数列の極限の概念を理解し、様々な数列の極限が求められるようにする。無限級数については、その極限と各項の極限との関係を理解し、正しく考察できるようにする。 第2節 関数の極限 4. 関数の極限 (1) 5. 関数の極限 (2) 6. 三角関数と極限 7. 関数の連続性 数列の極限と関連させて関数の極限について理解し、関連して関数の連続性についても理解するとともに、それらを様々な関数の考察に活用できるようにする。	確認 テスト		振 返 り シ ー ト
	7 月				期 末 考 査	期 末 考 査	ワ ー ク
	8 月	28	第3章 微分法	第1節 導関数 1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和・差・積・商の導関数を求める。合成関数の導関数を求める。 微分係数や導関数の定義を理解し、導関数についての様々な性質や公式を導き、それらを導関数の計算に活用できるようにする。 第2節 いろいろな関数の導関数 3. いろいろな関数の導関数 4. 第n次導関数 5. 曲線の方程式と導関数 導関数の定義や公式を適用して、いろいろな関数の導関数を導き、それを用いて関数が微分できるようにする。また、陰関数や媒介変数で表された関数の微分もできるようにし、それらを事象の考察に活用できるようにする。	確認 テスト	課 題 考 査	振 返 り シ ー ト
	9 月				課 題 考 査	課 題 考 査	夏 休 み 課 題
					確認 テスト		振 返 り シ ー ト

3 学期	10 月	28	第 4 章 微分法の応用	第 1 節 導関数の応用 1. 接線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数のグラフ 導関数を，接線，関数の増減，グラフなどに活用できるようにするとともに，積極的に導関数を活用しようとする姿勢を育てる。 第 2 節 いろいろな応用 5. 方程式，不等式への応用 6. 速度と加速度 7. 近似式 関数のグラフを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また，点の運動や近似式についても理解し，導関数を様々な方法で活用する姿勢を育てる。	中 間 考 査	中 間 考 査	ワーク
	11 月						
	12 月	16	第 5 章 積分法とその応用	第 1 節 不定積分 1. 不定積分とその性質 2. 置換積分法と部分積分法 3. いろいろな関数の不定積分 様々な関数の不定積分やその計算法則を導関数をもとにして考え，それをもとに不定積分を求められるようにする。 第 2 節 定積分 4. 定積分とその性質 5. 置換積分法・部分積分法 6. 定積分のいろいろな問題 様々な関数の定積分を求められるようにする。また，定積分を面積として捉え，様々な事象の考察に活用できるようにする。 第 3 節 積分法の応用 7. 面積 8. 体積 9. 道のり 10. 曲線の長さ 定積分を活用して，面積，体積，曲線の長さなどを求められるようにし，またそれらを通じて定積分の理解をさらに深める。	確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト
	1 月	20			期 末 考 査	期 末 考 査	ワーク
	2 月		課題学習	平方根の近似値 調和級数と積分法		レ ポ ー ト	振 り 返 り シ ー ト
	3 月						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

数学Ⅲでは、微分法や積分法をはじめ、他のさまざまな分野で応用される数学における非常に重要な概念を学習します。授業では、単に解き方を覚えるのではなく、考える時間を大切にしてください。授業での学習活動の取り組み状況も振り返りシートなどを用いて評価します。授業で学んだその日のうちにワークなどを用いて復習を行い、公式の基本的な使い方を身に付けて次の授業に臨んでください。余裕のある人は自主的に参考書の問題に取り組み、応用力を身に付けましょう。最後に、わからない問題は教科書や参考書で類題を調べたり、先生や友人などに聞くなどしたりして積極的に問題解決に向けて行動しましょう。いつでも質問に来てください。

令和6年度 数学科

科目名	数学C		学年	類型・コース	単位数
			3	理系	2
学習の目標	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書：新編 数学C（数研出版） 副教材：基本と演習テーマ 数学C（数研出版） チャート式 解法と演習 数学C（数研出版）				
評価	評価法	定期考査、確認テスト、課題考査、課題（ワーク）やレポート等の提出物、振り返りシート、学習活動への取り組み状況を踏まえて、観点別評価を行い、総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す各観点に基づいて評価し，観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c

1 学期	4 月	14	第 1 章 平面上のベクトル	第 1 節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 第 2 節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示 位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。	確認 テスト		振 り 返 り シ ー ト
	5 月				中 間 考 査	中 間 考 査	ワ ー ク
	6 月				確認 テスト		振 り 返 り シ ー ト
	7 月	10	第 2 章 空間のベクトル	1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形 平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。	期 末 考 査	期 末 考 査	ワ ー ク
	8 月	15	第 3 章 複素数平面	1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形 平面上の曲線がいろいろな式で表されること及び複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用する。 複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し、複素数の計算を図形を用いて考察するとともに、図形の考察に複素数の計算を活用できるようにする。	確認 テスト		振 り 返 り シ ー ト
	9 月				課 題 考 査	課 題 考 査	夏 休 み 課 題

2 学期	10 月	15	第 4 章 式と曲線	第 1 節 2 次曲線 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2 次曲線の平行移動 5. 2 次曲線と直線 2 次曲線の基本的な性質および曲線がいろいろな式で表現できることを理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。 放物線、楕円、双曲線の定義や性質を理解し、それらを図示したり、問題の解決に活用したりできるようにする。また、離心率を用いて 2 次曲線を統一的に捉えられるようにする。	確 認 テスト	中 間 考 査	振 り 返 り シ ー ト
	11 月						ワ ー ク
	12 月	6	第 2 節 媒介変数表示と極座標	6. 曲線の媒介変数表示 7. 極座標と極方程式 8. コンピュータの利用 2 次曲線の標準形や平行移動を理解し、概形を描く。 媒介変数表示と、極座標や極方程式による有効性を理解し、応用する。 曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解し、様々な曲線の媒介変数表示について考察できるようにする。また、極座標の仕組みについて理解し、図形を極方程式で表したり、極方程式が表す図形を求めたりできるようにする。さらに、コンピュータを用いるなどして、様々な曲線についてその方程式や概形について、主体的に考察しようとする姿勢を養う。	確 認 テスト	期 末 考 査	振 り 返 り シ ー ト
							ワ ー ク
3 学期	1 月 2 月 3 月	10	第 5 章 数学的な表現の工夫	1. データの表現方法の工夫 2. 行列による表現 3. 離散グラフによる表現 4. 離散グラフと行列の対応 日常の事象や社会の事象などを、図、表、統計グラフ、離散グラフや行列などを用いて工夫して表現することの意義について理解するとともに、それらを積極的に活用して事象を考察する姿勢を培う。	確 認 テスト		振 り 返 り シ ー ト

担当者からのメッセージ（学習方法など）

数学 C では、ベクトルや複素数平面など、今まで培ってきた数学の概念とは異なった内容を学習します。授業では、単に解き方を覚えるのではなく、考える時間を大切にしてください。授業での学習活動の取り組み状況も振り返りシートなどを用いて評価します。授業で学んだその日のうちにワーク（完成ノート）で復習を行い、公式の基本的な使い方を身に付けて次の授業に臨んでください。余裕のある人は自主的に参考書の問題に取り組み、応用力を身に付けましょう。最後に、わからない問題は教科書や参考書で類題を調べたり、先生や友人などに聞いたりなどして積極的に問題解決に向けて行動しましょう。いつでも質問に来てください。

令和6年度 数学科

科目名	数学演習文 1		学年	類型・コース	単位数
			3	文系 1	4
学習の目標	基礎知識の確認と計算技能の習熟を図るとともに、教科書で学んだことの確認と応用力を養成する。主に数学Ⅰ A・Ⅱ分野について、基礎から発展までの力をつける。				
使用教材	問題集：新課程 大学入学共通テスト対策 ニューステージ数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B・C受験編（数研出版） 副教材：チャート式 解法と演習 数学Ⅰ＋A（数研出版） チャート式 解法と演習 数学Ⅱ＋B（数研出版）				
評価	評価法	定期考査、確認テスト、課題考査、課題（ワーク）やレポート等の提出物、振り返りシート、学習活動への取り組み状況を踏まえて、観点別評価を行い、総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	数学Ⅰ・A・Ⅱの分野の内容全般を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	「数学を活用して事象を論理的に考察する力」，「数学的な観点から事象の本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力」，「数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力」を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	「数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度」，「粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度」，「問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度」や創造性の基礎を身に付けている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月 5月	20	数学Ⅱ内容	22. 式と証明 23, 24. 複素数と方程式 25～27. 図形と方程式 28, 29. 三角関数 30, 31. 指数関数と対数関数 32～34. 微分法 35, 36. 積分法	確認 テスト		振 返 り シ ー ト

1 学期	6 月	28	数学 I 内容	1～5. 数と式 6～8. 2次関数 9～11. 図形と計量 12～14. データの分析	中 間 考 査	中 間 考 査	ワーク
	7 月				確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト
2 学期	8 月		数学 A 内容	15～18. 場合の数と確率 19～21. 図形の性質	期 末 考 査	期 末 考 査	ワーク
	9 月	28			課 題 考 査	課 題 考 査	夏休み 課題
	10 月	44			確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト
	11 月				中 間 考 査	中 間 考 査	ワーク
	12 月				確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト
	1 月				期 末 考 査		ワーク
3 学期	2 月	20	数学 I A の 総合演習	数学 I A の総合演習	確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト
	3 月						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

数学演習文1では、数学Ⅰ・A・Ⅱの範囲全般の問題を扱います。問題の内容も複雑なものが多くなりますが、まずは基本的な内容の理解を目標としましょう。基本事項の確認などを反復して行うことで、基礎の定着や計算力の向上が期待できます。その後に、応用問題などにも取り組み、数学の力を培ってください。最後に、わからない問題は教科書や参考書で類題を調べたり、先生や友人などに聞くなどしたりして積極的に問題解決に向けて行動しましょう。いつでも質問に来てください。

令和6年度 数学科

科目名	数学演習文 3		学年	類型・コース	単位数
			3	文系 3	4
学習の目 標	基礎知識の確認と計算技能の習熟を図るとともに、教科書で学んだことの確認と応用力を養成する。主に数学Ⅰ・A分野について、基礎から発展までの力をつける。				
使 用 教 材	問題集：短期集中ゼミ 看護・医療系のための数学Ⅰ・A（実教出版） 副教材：チャート式 解法と演習 数学Ⅰ＋A（数研出版）				
評 価	評価法	定期考査、確認テスト、課題考査、課題（ワーク）やレポート等の提出物、振り返りシート、学習活動への取り組み状況を踏まえて、観点別評価を行い、総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	数学Ⅰ・Aの分野の内容全般を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	「数学を活用して事象を論理的に考察する力」、「数学的な観点から事象の本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力」、「数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力」を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	「数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度」、「粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度」、「問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度」や創造性の基礎を身に付けている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月	10	数学Ⅰ 数と式	式の展開と因数分解 無理数の計算 対称式の計算 絶対値記号	確認 テスト		振 返 り シ ー ト
	5月	18	2次関数	2次関数のグラフの移動 2次関数の最大・最小・決定 2次方程式と判別式 1次不等式・2次不等式 絶対値と方程式・不等式	中 間 考 査	中 間 考 査	ワ ー ク

	6月	20	三角比	三角比 三角比の相互関係 三角方程式・不等式 正弦定理・余弦定理 三角形の面積 三角形と図形	確認 テスト		振 返 り シ ー ト
	7月	12	集合と論理	集合と集合の要素 命題 必要条件と十分条件	期 末 考 査	期 末 考 査	ワ ー ク
2 学 期	8月	12	データの分析	度数分布と代表値 箱ひげ図 平均値と分散、標準偏差 データの相関	課 題 考 査	課 題 考 査	夏 休 み 課 題
	9月						
	10月	12	場合の数	和の法則・積の法則 順列と組み合わせ	確 認 テ ス ト		振 返 り シ ー ト
	11月	18	確率	確率の加法定理 順列・組合せと確率 余事象・反復試行の確率	中 間 考 査	中 間 考 査	ワ ー ク
		18	図形の性質	円周角の定理 接弦定理 円に内接する四角形 内心と外心 角の二等分線と辺の比 方べきの定理 円と接線 2円の関係	確 認 テ ス ト		振 返 り シ ー ト
	12月				期 末 考 査	期 末 考 査	ワ ー ク
3 学 期	1月	20	問題演習	I A 演習	確 認 テ ス ト		振 返 り シ ー ト
	2月						
	3月						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

数学演習文3では、数学Ⅰ・Ⅱの範囲全般の問題を扱います。問題の内容も複雑なものが多くなりますが、まずは基本的な内容の理解を目標としましょう。基本事項の確認などを反復して行うことで、基礎の定着や計算力の向上が期待できます。その後に、応用問題などにも取り組み、数学の力を培ってください。最後に、わからない問題は教科書や参考書で類題を調べたり、先生や友人などに聞くなどしたりして積極的に問題解決に向けて行動しましょう。いつでも質問に来てください。

令和6年度 理科

科目名	物理		学年	類型・コース	単位数
			3	理系	3
学習の目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、観察や実験を通して物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
使用教材	教科書：改訂版 総合物理１・２（数研出版） 副教材：セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、授業態度、提出物等で評価をします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 さまざまな物理現象を論理的に考察・分析し、その本質を原理や法則から説明できる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（Ａ、Ｂ、Ｃの３段階）および評定（１～５の５段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	48	第4編 電気と磁気 第1章 電場	1 静電気力	定期考査 小テスト	定期考査 実験	小テスト 課題
	5			2 電場			
				3 電位			
				4 物質と電場			
				5 コンデンサー			
	6		第2章 電流	1 オームの法則	定期考査	定期考査	小テスト
				2 直流回路	小テスト		課題
				3 半導体			

	7		第3章 電流と磁場	1 磁場 2 電流のつくる磁場 3 電流が磁場から受ける力	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
2 学期	9	72		4 ローレンツ力			
	10		第4章 電磁誘導と電磁波	1 電磁誘導の法則 2 自己誘導と相互誘導 3 交流の発生 4 交流回路 5 電磁波	定期 考查 小テ スト	定期 考查 観 察	小テ スト 課題
	11		第5編 原子 第1章 電子と光	1 電子 2 光の粒子性 3 X線 4 粒子の波動性	定期 考查 小 テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
	12		第2章 原子と原子核	1 原子の構造とエネルギー準位			
3 学期	1	20		2 原子核 3 放射線とその性質 4 核反応と核エネルギー 5 素粒子	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
	2						
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業内容はその時間中に消化するつもりで集中して取り組みましょう。また、復習や考查対策は授業プリントや問題集を利用して行いましょう。物理は学問的なルールを受け入れて、いかに正しく現象に対して適用できるかが問われます。論理的思考力が非常に大切となるので、「この式は何を意味しているか」「なぜそうなるか」といった点を重視して学習に取り組みましょう。

令和6年度 理科

科目名	化学		学年	類型・コース	単位数
			3	理系	4
学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察・実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
使用教材	教科書：啓林館 高等学校 化学 副教材：実教出版 「サイエンスビュー化学総合資料」 東京書籍 新課程 ニューアチーブ 化学 第一学習社 セミナー 化学基礎＋化学				
評価	評価法	定期考査、小テスト（適宜）、パフォーマンス課題、ノート、振り返りシート等を用いて総合的に評価をする。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	日常生活や社会との関わりを図りながら物質とその変化についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	48	第1部 物質の状態 第4章 溶液の性質 第1節 溶解と溶解度 第2節 希薄溶液の性質 第3節 コロイド	溶液やコロイドが示す性質について学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
	5		第2部 物質の変化と平衡 第1章 化学反応と熱・光エネルギー 第1節 反応熱とエンタルピー 第2章 ヘスの法則 第3節 化学反応と光	化学反応におけるエネルギーの出入りと熱や光との関係を学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
	6		第3章 反応速度 第1節 反応の速さ 第2節 化学反応と触媒	化学エネルギーを電気エネルギーとして取り出したり、外部から加えた電気エネルギーによって化学反応が起こったりする原理について学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
	7		第4章 化学平衡 第1節 化学平衡とその移動	化学平衡の状態とは何かを学んだ後、平衡定数を用いると平衡時の各物質の物質質量や分圧が求められることについて学ぶ。また、条件の変化に伴う平衡移動についても学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題

2 学 期	9		第2節 電離平衡				
			第3部 無機物質				
			第1章 周期表と元素の分類	周期表と元素の性質との 関係について学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
			第1節 周期表と元素の分類				
			第2章 非金属元素	非金属元素の単体や化合物 について、その性質や用途 を学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
			第1節 水素と貴ガス				
			第2節 ハロゲン				
			第3節 酸素・硫黄				
			第4節 窒素・リン				
			第5節 炭素・ケイ素				
			第3章 典型金属元素	金属元素の単体や化合物 について、その性質や用途 を学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
			第1節 アルカリ金属				
			第2節 アルカリ土類金属				
			第3節 アルミニウム				
			第4節 スズ・鉛				
		72	第4章 遷移元素	金属元素の多くが属する 遷移元素の単体や化合物に ついて、その性質や用途を学 ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
	10		第1節 遷移元素				
			第2節 金属イオンの分離と確認				
	11		第4部 有機化合物	有機化合物の一般的な性 質や構造を理解し、分類や分 析の仕方を学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
			第1章 有機化合物の特徴と分類				
			第1節 有機化合物の特徴と分類				
			第2節 有機化合物の分析				
	12		第2章 脂肪族炭化水素	有機化合物の基本的な化 合物である炭化水素のうち、 鎖式炭化水素と脂環式炭化 水素の構造と性質を学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
			第1節 飽和炭化水素				
			第2節 不飽和炭化水素				
			第3章 酸素を含む脂肪族化合物	酸素を含む有機化合物で あるアルコールやエーテル、 アルデヒド、ケトン、カルボ ン酸、油脂などについて、構 造や性質を学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
			第1節 アルコールとエーテル				
			第2節 アルデヒドとケトン				
			第3節 カルボン酸				
			第4節 エステルと油脂				
			第4章 芳香族化合物	芳香族炭化水素を始め、芳 香族化合物の性質を学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
			第1節 芳香族炭化水素				
			第2節 酸素を含む芳香族化合物				
			第3節 窒素を含む芳香族化合物				
			第4節 有機化合物の分離				

3 学 期	1	20	第5部 高分子化合物	高分子化合物の分類と特徴について学ぶ	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
	2		第1章 高分子化合物 第1節 高分子化合物の分類と特徴				
	3		第2章 天然高分子化合物 第1節 糖類 第2節 タンパク質 第3節 核酸				

担当者からのメッセージ（学習方法など）

「化学」は目には見えない小さな粒子達がどのように振る舞うのかを追いかけて、私たちの便利で豊かな生活を支えています。そんな「化学」を学習する上において以下のことを意識しましょう。

- 1 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。
- 4 化学式など必要な知識や基本事項は自分なりにゴロを作ったりと工夫しながら確実に押さえること。
- 5 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に対し、「なぜ?」「どうして?」の視点を持ち、自分の言葉で説明しようと努力すること。
- 6 分からないところが出てきたら、ほっとかずに、先生に聞きに行くなどして、できるだけ早く理解し解決すること。

化学は単元間が密接に関わりあっており、授業が進むに従って既習の知識を求められることが多くなります。理解の不十分な部分は、自主的に復習しましょう。

令和6年度 理科

科目名	生物	学年	類型・コース	単位数
		3	文系3	5
学習の目標	- 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 - 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 - 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。			
使用教材	教科書：高等学校 生物（第一学習社） 高等学校 生物基礎（第一学習社） 副教材：フォトサイエンス生物図録（数研出版）、セミナーノート 生物（第一学習社）			
評価	評価法	定期考査、小テスト、レポート、振り返りシート、提出物、授業態度等で評価をします。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

期	月	時数	学習項目 ・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	10	生物基礎 第3章 人のからだの調節 2. 免疫	- 皮膚や粘膜による生体防御 - 白血球の役割 - 免疫を担う細胞や器官の種類と働き概要 - 自然免疫のしくみと抗体の特徴 - 獲得免疫による病原体排除の流れ - 自然免疫と獲得免疫の特徴と関連 - アレルギーや自己免疫疾患、エイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみ - 免疫のしくみを用いている予防接種や血清療法などのしくみと抗体医薬	定期考査 小テスト	定期考査 レポート	振り返りシート レポート 提出物
		10	第4章 植生と遷移 1. 植生と遷移 2. バイオーム	- 環境要因と環境形成作用の関係 - 生物的環境と非生物的環境の違い - 森林の階層構造と光環境の関係 - 環境要因としての土壌の構造や成り立ち - 植生の遷移についてモデル的な過程と極相林でも起きる植生の変化 - 環境に適応した植生が成立し、植生を構成する植物 - 生態系とバイオームの形成 - 世界のバイオームの特徴と気候や構成する生物種 - 日本のバイオームの特徴と遷移の関連	定期考査 小テスト	定期考査 レポート	振り返りシート レポート 提出物
			第5章 生態系とその保全 1. 生態系と生物の多様性 2. 生態系のバランスと保全	- 陸上以外のさまざまな生態系 - 生物の個体数や量の変動とバランス - 生態系の種の多様性や個体数は環境と密接に関係し、食物連鎖（食物網） - 捕食－被食の関係が種の多様性に与える影響 - 人類が与える生態系のバランスへの影響	定期考査 小テスト	定期考査 レポート	振り返りシート レポート 提出物
		10	第1章 生物の進化 1. 生命の起源と細胞の進化 2. 遺伝子の変化と遺伝子の組	- 生命の起源に関する考え - 生命が誕生したと考えられる場所 - 光合成生物の出現が地球環境に与えた影響 - 細胞内共生 - 突然変異とNAの塩基配列の変化によってアミノ酸配列が変化するしくみ - 生物の種の染色体の数や形、核相 - 減数分裂における核相の変化と減数分裂によって生じ	定期考査 小テスト	定期考査 レポート	振り返りシート レポート 提出物

			み合わせの変化 3. 進化のしくみ	・配偶子の染色体の組み合わせ ・受精によって生じる染色体の組み合わせ ・連鎖している遺伝子の組み合わせ ・組換えと配偶子の染色体構成が多様化 ・遺伝子頻度と一定の条件を満たす集団の遺伝子頻度 ・遺伝子頻度が変化する要因 ・進化の要因と自然選択 ・隔離による種分化が起こるしくみ			
	5	10	第2章 生物の系統と進化 1. 生物の系統 2. 人類の系統と進化	・人為分類と系統分類の違い ・分子時計の考え方と分子時計を用いた種間の類縁関係や分岐時期の推定法 ・界と3つのドメイン ・アーキアに属する生物の特徴 ・五界説の考え方と原生生物、植物、菌類、動物の特徴 ・植物と動物の系統関係 ・生物の分類の階級と二名法による種の表し方 ・霊長類の進化の過程 ・霊長類および類人猿の形質の特徴 ・人類の直立二足歩行と脳容積の変化との関係 ・人類の拡散のようす	定期 考 査 小テ ス ト	定期 考 査 レポ ー ト	振り返り シート レポート 提出物
		10	第3章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質 3. 生命現象とタンパク質	・生物を構成する主な物質である水、タンパク質、脂質、炭水化物の特徴 ・生体膜の構造 ・真核細胞内の細胞骨格や構造体 ・タンパク質の構造 ・タンパク質の立体構造と機能の関連 ・酵素と活性化エネルギーの関係 ・酵素の基質特異性を立体構造との関連 ・酵素の最適温度、最適pH ・選択的透過性および受動輸送と能動輸送との違い ・チャネルと輸送体との違い ・ナトリウムポンプ ・細胞膜に存在する3種類の受容体の特徴と情報伝達のしくみ	定期 考 査 小テ ス ト	定期 考 査 レポ ー ト	振り返り シート レポート 提出物
	6						
		10	第4章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 炭酸同化 3. 異化	・代謝におけるエネルギーの流れ ・同化と異化の違い ・代謝とATP, NADP⁺, NAD⁺, FADの関連 ・葉緑体の構造 ・吸収スペクトルと作用スペクトル ・光合成の過程におけるエネルギーの流れ ・植物の光合成と細菌の光合成・化学合成との違い ・ミトコンドリアの構造 ・解糖系、クエン酸回路、電子伝達系の各過程 ・呼吸と発酵の違い ・アルコール発酵と乳酸発酵の違い	定期 考 査 小テ ス ト	定期 考 査 レポ ー ト	振り返り シート レポート 提出物
	7						
2 学 期	9	18	第5章 遺伝情報とその発現 1. DNAの複製 2. 遺伝子の発現	・DNAの構造とDNAの半保存的複製 ・RNAのヌクレオチドの種類と構造 ・真核細胞の転写のしくみ ・スプライシングの過程と選択的スプライシング ・遺伝暗号表と翻訳の過程	定期 考 査 小テ ス ト	定期 考 査 レポ ー ト	振り返り シート レポート 提出物
		18	第6章 遺伝子の発現調節と発生 1. 遺伝子の発現調節	・状況に応じた必要な遺伝子の発現調節 ・調節タンパク質による遺伝子の発現調節 ・原核生物におけるラクトースオペロンの発現調節 ・真核生物における遺伝子の発現調節	定期 考 査 小テ ス ト	定期 考 査 レポ ー ト	振り返り シート レポート 提出物

	10	2. 発生と遺伝子の発現	- 動物の配偶子の形成過程 - ウニの受精と発生の過程 - 発生における体軸の形成、胚の区画化、分化の方向 - 母性因子の濃度勾配と体軸が決定 - 発生過程における調節遺伝子の段階的な発現と胚の区画化 - カエルの発生過程 - 中胚葉誘導と神経誘導のしくみ - 誘導の連鎖による器官が形成のしくみ - Hox遺伝子群			
	18	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用 1. 遺伝子を扱う技術 2. 遺伝子を扱う技術の応用	- クローニングの方法とPCR法や電気泳動法の原理 - 遺伝子導入と遺伝子の機能の解析 - ノックイン, ノックアウト, ノックダウン - ゲノム編集の利点 - 遺伝子組換えによって作出された生物と農業や医療への応用 - DNA型鑑定の原理 - 遺伝子を扱う際の課題	定期 考 査 小テ ス ト	定期 考 査 レポ ー ト	振り返り シート レポ ー ト 提出物
	18	第8章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容と反応 2. 動物の行動	- 動物の受容器と刺激に対しての反応 - ニューロンと有髄神経繊維の構造およびヒトの神経系の構成 - 静止電位と活動電位が生じるしくみ - 全か無かの法則 - 刺激の強さに応じ感覚の強さが変化するしくみ - 跳躍伝導のしくみ - シナプスを介した興奮の伝達とシナプス後電位の加重 - ヒトの各受容器に対する適刺激 - 刺激が中枢に伝わる過程とその特徴 - 眼の構造と桿体細胞と錐体細胞の分布や、吸収する光の特徴 - 明順応と暗順応および眼の遠近調節 - 耳の構造と聴覚と平衡覚が生じるしくみ - 嗅覚が生じるしくみ - 脳と脊髄の構造と各領域の働き - 反射のしくみと反射弓 - 骨格筋の構造と筋収縮のしくみ - 生得的行動と習得的行動の特徴 - かき刺激 - 固定的動作パターン - リズムカルな運動が生じるしくみ - 反射に関わる神経系の電気的特性と慣れが生じるしくみ - 慣れ, 脱慣れ, 鋭敏化のしくみ - 古典的条件付け - 刷込みや試行錯誤と知能行動	定期 考 査 小テ ス ト	定期 考 査 レポ ー ト	振り返り シート レポ ー ト 提出物
	11					
	18	第9章 植物の成長と環境応答 1. 植物と環境 2. 植物の一生と植物ホルモン	- 植物ホルモンの特徴 - 植物体内での物質輸送のしくみ - 被子植物の配偶子形成と重複受精 - 被子植物の胚発生の過程 - 頂端-基部軸が形成されるしくみ - 種子形成の過程 - 種子の休眠と発芽には植物ホルモンの関係 - 光発芽種子における発芽と光の関係 - 植物細胞の成長において、オーキシンが作用するしくみ - オーキシンの極性移動 - 植物の屈性と傾性 - 気孔の開閉のしくみ - 光周性と花芽形成 - 春化 - ABCモデルにもとづく花の形成 - 植物のホメオティック突然変異体とABCモデルとの関連	定期 考 査 小テ ス ト	定期 考 査 レポ ー ト	振り返り シート レポ ー ト 提出物
	12					

3 学 期	1	25	第10章 生態系のしくみと人間の関わり 1. 個体群と生物群集	・ 個体群と相互作用 ・ 個体の分布様式 ・ 標識再捕法 ・ 生存曲線 ・ 年齢ピラミッド ・ 最終収量一定の法則と個体群密度の個体や個体群への影響 ・ 環境と個体群の変動の大きさとの関係 ・ 群れや縄張りの大きさが決まるしくみ。 ・ 順位制やつがい関係、共同繁殖、社会性昆虫 ・ 血縁度と包括適応度の考え方 ・ 捕食者と被食者の個体数変動 ・ 共生および寄生の関係 ・ ニッチの概念 ・ 種間競争による競争的排除のしくみ。 ・ 間接効果 ・ ニッチの分割による多様な種の共存。 ・ 基本ニッチと実現ニッチの比較と競争の有無や程度との関連 ・ 形質置換 ・ 中規模攪乱説 ・ キーストーン種と多種の生物の共存のしくみ	定 期 考 査	定 期 考 査	振り返り シート
	2		2. 生態系の物質生産と消費	・ 生態系における物質生産 ・ 生産構造図と層別刈取法 ・ 生態系の違いによる物質生産の特徴 ・ 生態系内における炭素の循環 ・ 物質収支と捕食－被食の関係に伴うエネルギーの流れ ・ エネルギー効率 ・ 栄養段階が上がるごとに個体数が減少することと利用できるエネルギー量との関連	小テ ス ト	レポ ー ト	レポート 提出物
	3		3. 生態系と人間生活	・ 生態系内における窒素の循環 ・ 窒素同化と窒素固定の違い ・ 生物多様性の3つのとらえ方 ・ 化学肥料が生態系に与える影響 ・ 人間活動が生態系に及ぼす影響 ・ 個体群の大きさの縮小による絶滅の危険性 ・ 生態系サービス ・ 生物多様性を保全することの重要性 ・ 生態系に影響を与える人間活動と保全活動			
担当者からのメッセージ（学習方法など）							
・ 基本的に予習はあまり必要ありませんが、授業内容はその時間中に理解するつもりで集中して取り組むこと、また、考えることが大切です。その上で、知識の定着や内容の理解の度合いを確認するために問題演習に取り組んでください。 ・ 受験に向けては、基本的な知識をしっかりと理解したうえで、「なぜそうなるのか?」「しくみはどうなっているのか?」ということを考え、互いに関連しあっている生物現象を総合的に理解することも大切です。また、受験に向けては、知識はもちろん必要ですが、普段から問題のリード文、設問文、図やグラフなどの情報から必要な情報を読み取る力をつけることが重要です。							

令和6年度 理科

科目名	生物	学年	類型・コース	単位数
		3	理系	3
学習の目標	- 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 - 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 - 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。			
使用教材	教科書：高等学校 生物（第一学習社） 副教材：フォトサイエンス生物図録（数研出版）、セミナー生物基礎＋生物（第一学習社）			
評価	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、振り返りシート、授業態度、提出物等で評価をします。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	20	第6章 遺伝子の発現調節と発生	①遺伝子の発現調節 ①動物の配偶子形成と受精 ②ショウジョウバエの発生における遺伝子の発現調節 ③カエルの発生における遺伝子の発現調節 ④発生過程にみられる多様性と共通性	定期考査	定期考査	小テスト
	5		1. 遺伝子の発現調節				
	6		2. 発生と遺伝子の発現				
	7	16	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用	①遺伝子の単離と増幅 ②遺伝子の構造や発現を解析する方法 ③遺伝子の機能を解析する方法	定期考査	定期考査	小テスト 振り返りシート

2 学 期	9	12	2. 遺伝子を扱う 技術の応用	①人間生活への応用 ②遺伝子を扱う際の課題	定期 考査	定期 考査	小 テ ス ト
	10	21	第 8 章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容と 反応 2. 動物の行動	①刺激の受容と反応 ②神経系とニューロン ③ニューロンによる電気的な信号の生成とそれを 伝えるしくみ ④受容器 ⑤中枢神経系の構造と反応 ⑥効果器 ①動物の行動 ②生得的行動 ③習得的行動と学習	定期 考査	定期 考査	小 テ ス ト
	11	21	第 9 章 植物の成長と環境 応答 1. 植物と環境 2. 植物の一生と 植物ホルモン	①植物の刺激の受容と情報の伝達 ①被子植物の受精と胚発生 ②種子の発芽と光環境 ③植物の環境応答と成長 ④花芽形成と花の形成 ⑤果実の成長と成熟, 落葉・落果	定期 考査	定期 考査	小 テ ス ト 振 り 返 り シ ー ト
	12	21					
3 学 期	1 2 3	15	まとめと演習	①全体を通してのまとめ ②演習	小テ スト	レポ ート	振 り 返 り シ ー ト

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業内容はその時間中に消化するつもりで集中して取り組みましょう。また、復習や考査勉強は問題集や資料集を利用してその都度行いましょう。基本的な知識を覚えるだけでは対応できないので、「なぜそうなるのか?」「仕組みはどうなっているのか?」ということを理解しましょう。

令和6年度 理科

科目名	生物基礎演習		学年	類型・コース	単位数
			3	文系 1	2
学習の目標	問題演習を通して、教科書で学んだ知識の定着を図り、応用力を身につける。				
使用教材	「高等学校 生物基礎」(第一学習社)、フォトサイエンス生物図録(数研出版)、セミナー生物基礎(第一学習社)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、提出物、授業態度、ふり返りシート等で評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や観察、実験などに関する技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元名	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	16	第1章 生物の特徴 1. 生物の共通性 2. 生物とエネルギー	① 生物の多様性と共通性 ② 生物の共通性の由来 ③ 生物とエネルギー ④ 代謝とATP ⑤ 代謝と酵素	定期考査 小テスト	定期考査 レポート 課題	振り返り シート レポート 課題
	5						
	6						
	7	8	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体と構造	① 遺伝情報とDNA ② DNAの複製と分配	定期考査 小テスト	定期考査 レポート 課題	振り返り シート レポート 課題

2 学 期	9	12	第2章 遺伝子とその働き 2. 遺伝情報とタンパク質	① 遺伝情報とタンパク質 ② 転写と翻訳 ③ 遺伝子とゲノム	定期考査 小テスト	定期考査 レポート 課題	振り返り シート レポート 課題
	10						
	11	18	第3章 ヒトのからだの調節 1. 情報の伝達と体内環境の維持 2. 免疫	① 恒常性と神経系 ② 恒常性と内分泌系 ③ 体内環境を調節するしくみ ④ 血液凝固 ⑤ 生体防御 ⑥ 自然免疫 ⑦ 獲得免疫 ⑧ 自然免疫と獲得免疫の特徴 ⑨ 免疫と生活	定期考査 小テスト	定期考査 レポート 課題	振り返り シート レポート 課題
	12						
3 学 期		6	第4章 植生と遷移 1. 植生と遷移 2. バイオーム	① 植生と環境の関わり ② 遷移のしくみ ③ 遷移とバイオーム	定期考査 小テスト	定期考査 レポート 課題	振り返り シート レポート 課題
	1	10	第5章 生態系とその保全 1. 生態系と生物の多様性 2. 生態系のバランスと保全	① 生態系の成り立ち ② 生態系における生物どうしの関わり ③ 生態系の変動と安定性 ④ 人間活動による生態系への影響とその対策	小テスト	レポート 課題	振り返り シート レポート 課題
	2						
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

1年次に学習した生物基礎について問題演習を通じて基礎の定着、応用力の育成を図ります。1年次に身につけておくべき内容で不十分だと思われるところは、各自復習をしておきましょう。考査前にまとめて勉強するのではなく、日々の授業を大切に、その都度ふり返ることで知識を定着させていきましょう。

令和6年度 理科

科目名	地学基礎演習			学年	類型・コース	単位数
				3	文系 1	2
学習の 目 標	地球や地球を取り巻く環境に関わる基礎的な内容を問題演習を通して扱い、理科の見方・考え方を働かせることで科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。					
使 用 材	地学基礎（実教出版）、地学基礎の基本マスター（啓林館）、ベストフィット地学基礎（実教出版）					
評 価	評価法	定期考査、小テスト、提出物、レポート、授業態度等で評価します。				
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付けている。		
		b	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。		
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元名	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	24	第4章 古生物の変遷と地球環境の変化	1 地層の作り方	定期考査 小テスト	定期考査 レポート 課題	振り返り シート レポート 課題
	5		1 節 地層の作り方	2 堆積岩			
				3 地層を調べる			
			2 節 化石と地質時代の区分	1 化石			
	6			2 地層の対比と地質時代の区分			
	7		3 節 古生物の変遷と地球環境	1 初期生命と大気の変化 先カンブリア時代			
				2 多様な生物の出現と脊椎動物の発展 古生代～中生代			
				3 哺乳類の繁栄と人類の発展 新生代			

2 学期	9	12	第5章 地球の環境 1節 日本の自然環境 2節 地球環境の科学	1 日本列島がつくる自然の特徴 2 さまざまな自然災害と防災・減災 1 人間活動がもたらす環境問題と自然変動 2 気候変動と地球温暖化 3 地球環境と物質循環 4 地球環境に与える人間生活の影響	定期考査 小テスト	定期考査 レポート 課題	振り返り シート レポート 課題
	10						
	11	8	第1章 地球の構成 と運動	1節 地球の構造 2節 プレートの運動 3節 地震と火災	総合演習		振り返り シート レポート 課題
	12	8	第2章 大気と海洋	1節 大気の構造と運動 2節 大気の大循環 3節 海洋の構造と海水の運動 4節 日本の四季の気象と気候	総合演習		
		8	第3章 宇宙、太陽 系と地球の 誕生	1節 宇宙の誕生 2節 太陽の誕生 3節 惑星の誕生と地球の成長	総合演習		振り返り シート レポート 課題
3 学期	1	10	第4章 古生物の変 遷と地球環 境の変化	1節 地層のでき方 2節 化石と地質時代の区分 3節 古生物の変遷と地球の環境	総合演習		振り返り シート レポート 課題
	2						
	3		第5章 地球の環境	1節 日本の自然環境 2節 地球環境の科学	総合演習		

担当者からのメッセージ（学習方法など）

2年次に学習した地学基礎について問題演習を通じて基礎の定着、応用力の育成を図ります。2年次に身につけておくべき内容で不十分だと思われるところは、各自復習をしておきましょう。考査前にまとめて勉強するのではなく、日々の授業を大切に、その都度ふり返ることで知識を定着させていきましょう。

令和6年度 理科

科目名	物理演習		学年	類型・コース	単位数
			3	理系	1
学習の目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、問題演習を通して物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
使用教材	教科書：改訂版 総合物理 1・2（数研出版） 副教材：セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、授業態度、提出物等で評価をします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 さまざまな物理現象を論理的に考察・分析し、その本質を原理や法則から説明できる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	1	第1編 力と運動 第1章 運動の表し方	1 速度 2 加速度 3 落体の運動 } 総合演習	定期考査	定期考査	小テスト
					小テスト		課題
		2	第2章 運動の法則	1 力とそのはたらき 2 力のつりあい 3 運動の法則 4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受ける力 6 剛体にはたらく力のつりあい } 総合演習	定期考査 小テスト	定期考査	小テスト 課題
	5	2	第3章 仕事と力学的エネルギー	1 仕事 2 運動エネルギー 3 位置エネルギー 4 力学的エネルギーの保存 } 総合演習	定期考査 小テスト	定期考査	小テスト 課題

	6	2	第4章 運動量の保存	1 運動量と力積 2 運動量保存則 3 反発係数	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		2	第5章 円運動と万有引力	1 等速円運動 2 慣性力 3 単振動 4 万有引力	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		1	第2編 熱と気体 第1章 熱と物質	1 熱と物質の状態 2 熱と仕事	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		2	第2章 気体のエネルギーと状態変化	1 気体の法則 2 気体分子の運動 3 気体の状態変化 4 エネルギーの移り変わり	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
2 学期	9	2	第3編 波 第1章 波の性質	1 波と媒質の運動 2 正弦波の式 3 波の伝わり方	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		2	第2章 音	1 音の伝わり方 2 発音帯の振動と共振・共鳴 3 音のドップラー効果	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		3	第3章 光	1 光の性質 2 レンズと鏡 3 光の干渉と回折	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		3	第4編 電気と磁気 第1章 電場	1 静電気力 2 電場 3 電位 4 物質と電場 5 コンデンサー	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
	10							

	11	2	第2章 電流	1 オームの法則 2 直流回路 3 半導体	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		3	第3章 電流と磁場	1 磁場 2 電流のつくる磁場 3 電流が磁場から受ける力 4 ローレンツ力	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		3	第4章 電磁誘導と電磁波	1 電磁誘導の法則 2 自己誘導と相互誘導 3 交流の発生 4 交流回路 5 電磁波	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
	12	2	第5編 原子 第1章 電子と光	1 電子 2 光の粒子性 3 X線 4 粒子の波動性	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		3	第2章 原子と原子核	1 原子の構造とエネルギー準位 2 原子核 3 放射線とその性質 4 核反応と核エネルギー 5 素粒子	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

これまで学習してきた内容について演習を通して確認する授業となります。自分は何を理解・記憶していて、何を理解できていないかを実感しながら授業に臨み、できていない部分については授業外で自分自身で補完するようにしましょう。物理は問題が解けるようになればなるほど楽しくのめり込んでいく科目です。自分が楽しいと思える状態になるまでは根気強く学習を継続していきましょう。

令和6年度 理科

科目名	生物演習		学年	類型・コース	単位数
			3	理系	1
学習の目標	・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・問題演習を通して科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				
使用教材	高等学校 生物（第一学習社）フォトサイエンス生物図録（数研出版） セミナー生物基礎＋生物（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、振り返りシート、授業態度、提出物等で評価をします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 さまざまな生命現象を論理的に考察・分析し、その本質を原理や法則から説明できる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	3	第1章 生物の進化 1. 生命の起源と細胞の進化 2. 遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 3. 進化のしくみ	①生命の誕生 ②細胞の進化 ①遺伝子とその変化 ②遺伝子の組み合わせの変化 ①進化のしくみ ②種分化	総合演習	定期考査 小テスト	定期考査 課題
	5	2	第2章 生物の系統と進化 1. 生物の系統 2. 人類の系統と進化	①生物の系統と分類 ②細菌（バクテリア）とアーキア（古細菌） ③真核生物（ユーカリア） ①人類の系統と進化	総合演習	定期考査 小テスト	定期考査 課題

2 学期	6	2	第3章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質 3. 生命現象とタンパク質	①細胞を構成する物質 ①タンパク質の構造と性質 ①酵素 ②膜輸送タンパク質 ③受容体	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		5	第4章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 炭酸同化 3. 異化	①同化と異化 ①光合成と葉緑体 ②光合成の過程 ①呼吸とミトコンドリア ②発酵	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
	10	4	第5章 遺伝情報とその発現 1. DNAの複製 2. 遺伝子の発現	①DNAの構造と複製 ①転写 ②翻訳	総合演習			
		3	第6章 遺伝子の発現調節と発生 1. 遺伝子の発現調節 2. 発生と遺伝子の発現	①遺伝子の発現調節 ①動物の配偶子形成と受精 ②ショウジョウバエの発生における遺伝子の発現調節 ③カエルの発生における遺伝子の発現調節 ④発生過程にみられる多様性と共通性	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		3	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用 1. 遺伝子を扱う技術 2. 遺伝子を扱う技術の応用	①遺伝子の単離と増幅 ②遺伝子の構造や発現を解析する方法 ③遺伝子の機能を解析する方法 ①人間生活への応用 ②遺伝子を扱う際の課題	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
	11							

3 学 期	12	4	第8章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容と反応 2. 動物の行動	①刺激の受容と反応 ②神経系とニューロン ③ニューロンによる電気的な信号の生成とそれを伝えるしくみ ④受容器 ⑤中枢神経系の構造と反応 ⑥効果器 ①動物の行動 ②生得的行動 ③習得的行動と学習	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		4	第9章 植物の成長と環境 応答 1. 植物と環境 2. 植物の一生と 植物ホルモン	①植物の刺激の受容と情報の伝達 ①被子植物の受精と胚発生 ②種子の発芽と光環境 ③植物の環境応答と成長 ④花芽形成と花の形成 ⑤果実の成長と成熟，落葉・落果	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
	1	3	第10章 生態系のしくみと 人間の関わり 1. 個体群と生物 群集 2. 生態系の物質 生産と消費 3. 生態系と人間 生活	①個体群とその特徴 ②個体群の変動と維持 ③個体群内の相互作用 ④個体群間の相互作用 ⑤多様な種が共存するしくみ ①物質生産 ②物質とエネルギーの移動 ①生態系と生物多様性 ②人間生活と生態系の変化 ③生物多様性の保全とその意義	総合演習	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		2						
		3	総合演習	複数の分野の総合演習		定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題

担当者からのメッセージ（学習方法など）

これまで学習してきた内容について演習を通して確認する授業となります。自分は何を理解・記憶していて、何を理解できていないかを実感しながら授業に臨み、できていない部分については授業外で自分自身で補完するようにしましょう。生物は知らないと解けない問題が一定数あります。まずは知識をつけるところからスタートしましょう。また、問題のリード文や設問文を読解したり、図やグラフから必要な常用を読み取る力をつけることが重要です。

令和6年度 保健体育科

科目名	体育		学年	類型・コース	単位数
			3	全員	3
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習 過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
使用教材	教科書：「現代高等保健体育」（大修館書店） その他：振り返りプリント、各種目の用具				
評価	評価法	スキルテスト、観察、振り返りシート、小テスト、運動の計画、発表			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性を理解するとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を高めるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に取り組もうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元名	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	10	体づくり運動	・手軽な運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方を理解する。実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組む。また、考えたことを他者に伝え、運動を主体的に取り組むとともに、健康安全を確保できるように取り組む。	運動の計画、発表	観察	振り返りシート
	5	20	【選択Ⅰ】ソフトボール・サッカー・バスケットボール	【選択種目】 ・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるよう、チームにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに、勝敗に対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場所などの安全性を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。	運動の計画、発表 スキルテスト	観察	振り返りシート
	6						

1 学期	6	20	【選択Ⅱ】 バドミントン・テニス・バレーボール	【選択種目】 ・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるよう、チームにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに、勝敗に対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場所などの安全性を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。	運動の計画、発表 スキルテスト	観察	振り返りシート
	7						
2 学期	9	9	体づくり運動	・手軽な運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方を理解する。実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組む。また、考えたことを他者に伝え、運動を主体的に取り組むとともに、健康安全を確保できるように取り組む。	スキルテスト	観察	振り返りシート
	10						
		20	【選択Ⅲ】 バドミントン・卓球・テニス	【選択種目】 ・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるよう、チームにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに、勝敗に対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場所などの安全性を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。	運動の計画、発表	観察	振り返りシート
	11						
		20	【選択Ⅳ】 ソフトボール・バレーボール・卓球	【選択種目】 ・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるよう、チームにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに、勝敗に対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場所などの安全性を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。	スキルテスト	観察	振り返りシート
	12						
3 学期	1 2 3	6	体育理論 豊かなスポーツライフの設計の仕方	豊かなスポーツライフの設計の仕方について、各ステージには身体的、心理的、社会的特徴に応じたスポーツの楽しみ方があり、個人の欲求によっても変化し、自らのライフスタイルに適したスポーツのかかわり方があることを理解する。また、豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、その解決に向けて、思考し判断するとともに、他者へ伝えられるように取り組む。	小テスト	観察	振り返りシート

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- 自らの体に関心を持って、毎日健康に過ごすためにはどのような運動習慣を身につけるのがよいのかを学んでいきましょう。
- 生活習慣を整えて毎日を過ごす。（食事、睡眠など）
- よい意志決定行動選択ができるようになりましょう。
- 授業などで学んだことを実践しましょう。

令和6年度 芸術科

科目名	音楽芸術		学年	類型・コース	単位数
			3	文系 2	2
学習の目標	これまでの音楽の授業で学習した基礎としながら、芸術としての音楽の奥深さに触れる。多様なジャンルの音楽を学び、その表現活動を通して、技術の向上に努める。また、各国の音楽芸術を鑑賞することにより、文化としての音楽について理解する				
使用教材	学習プリント（自作のもの） 自作教材など				
評価	評価法	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10の10段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評点（1～5の5段階）にまとめます。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関り及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	
		b	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元名	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	4	○ソルフェージュを学ぼう	・様々なリズムパターンや、基本的な楽譜の書き方を学ぶ。	学習プリント	学習プリント	学習プリント 観察
	5	6	○音楽って何だろう	・音楽について考えを深め、学ぶ必要性を考える。 ・おすすめ曲の鑑賞を通して様々な表現方法について理解する。	学習プリント	学習プリント	学習プリント 観察
		6	○生活と音楽	・身の回りにある音を調べ、サウンドマップを作る。 ・生活の中で音楽がどのような役割をしているか理解する。 ・生活の場面にふさわしい、プレイリストを作成する。	学習プリント 発表	学習プリント 発表	学習プリント 観察
	6	8	○合唱をしよう	・パートの役割を考え、互いを聞きながら合唱を作り上げる。 ・歌詞の内容を踏まえて音楽的特徴を理解し、表現を工夫しながら歌う。	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察
	7						

2 学期	9	10	○リズムアンサンブルを楽しもう	・体を使った表現に興味関心を持つ。 ・グループで協力しながら、強弱や表現方法を工夫し、表現する。	学習プリント 聴取 発表	学習プリント 聴取 発表	学習プリント 観察
	10						
	11	12	○ミュージカルとオペラを鑑賞しよう	・オペラ「ラ・ボエーム」とミュージカル「RENT」を鑑賞し、それぞれの表現方法について理解する。 ・それぞれの特徴を理解し、表現を工夫しながら歌唱する	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察
	12	8	○世界の諸民族の音楽	・世界の諸民族の音楽について学び、楽曲を鑑賞する。	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察
		6	○創作表現の楽しみ	・実際に演奏し、楽曲の良さや特徴を味わう。 ・示されたコード進行やベースをもとにメロディーを作ったり、パートを重ねたりする。また発展させたメロディーにコードをつける。	学習プリント 作品	学習プリント 観察	学習プリント 観察
3 学期	1	4	○文楽に親しもう	・文楽について学び、義太夫節の特徴や声の音色を聞き取って謡う。 ・各楽器の正しい奏法を身に付ける。 ・楽曲の特徴を理解し、表現を工夫しながら演奏する。	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察
	2	6	○器楽アンサンブルの楽しみ	・パートの役割を理解して、音色の特徴を生かしながらアンサンブルをする。	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

音楽芸術では、これまでの音楽の授業で学習したことをもとに、多様なジャンルの音楽を学び、表現技術の向上に努めます。また、娯楽や趣味の音楽だけでなく、各国の音楽を鑑賞することにより、文化としての音楽という側面についても理解を深めていきます。この授業を通して、一生の友となるような音楽に出会ってほしいと思います。

音楽や芸術は、人生を豊かにしてくれます。仲間と協力して、みんなで美しいハーモニーを響かせましょう♪

令和6年度 芸術科

科目名	素描・油彩		学年	類型・コース	単位数
			3	文系2	2
学習の目標	素描や油彩による造形活動を通して美的体験を豊かにし、生涯を通じて美術を愛好する心情を育てると共に、美術文化や歴史について正しく理解し、美術の能力をさらに高める。				
使用教材	はじめに学習の内容や目標について詳しく説明し、その後制作活動を行う。毎時間の目標にそって計画的に制作を進める。主にモノのとらえ方や描写技術の向上を目指す				
評価	法 評価	評価は、学習の取り組み状況（観察、発表）創作作品における課題進歩状況、学習プリントの記入状況などとともに総合的に判断して決定します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 造形的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を創意工夫し表している。画材の歴史について関心を深めている。	
		b	思考・判断・表現	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発送や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。自己表現の探求に力を注いでいる。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元名	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	2	オリエンテーション	素描・油彩の学習内容、評価、心構えについて理解する。	学習プリント	学習プリント	学習プリント
		6	グラデーションプリント	デッサンについての正しい知識と理解度を確認する。 参考資料の内容を理解する。	学習プリント	学習プリント	学習プリント
	5	6	鉛筆デッサン（基礎）	立体の構造や、視点による見え方を理解すると共に、デッサンの手順や用具について正しく理解する。	作品	作品	作品
		8	鉛筆デッサン（3点モチーフ）	幾何形体や単純な構造のモチーフをデッサンする。 より複雑な構造や、材質のモチーフをデッサンし、形のとらえ方や質感の違いを表現する。	作品	作品	作品
	6	2	鑑賞	素描・油彩の学習内容に興味関心を持つ。 美術におけるデッサンの重要性を理解する。 デッサンとは単なる写生ではなく、三次元の立体を二次元の平面に再構成することを理解させる。	学習プリント	学習プリント	学習プリント
	7			複雑な形も、基本的な形の組み合わせであることに気付かせる。 様々な質感の違いを表現させ、表現方法の多様性や可能性を学ばせる。 学習内容の定着を図る。			
				他者の個性を理解し、美術を鑑賞する能力と、美術を愛好する心情を養う。			

2 学期	9	6	テンペラ (古典技法)	美術文化の歴史を学び、油彩画が描かれるより前に存在した古典技法を用いて描くことにより、絵具の特徴を理解し、多様な美術の在り方や編成を理解する。	学習プリント	学習プリント	学習プリント
	10	8	構図について	描きたいものの見せ方や表現方法を学ぶ。アイディアスケッチを繰り返し自己表現の探求をする。	作品	作品	作品
	11	6		油彩が確立された歴史的な背景を理解させると共に、油彩の特性や表現方法の多様性に気付かせる。	学習プリント	学習プリント	学習プリント
		12	作品制作	使用する絵の具の色数を限定することによって、混色の方法や色の仕組みについて理解させる。	作品	作品	作品
	12	4	鑑賞	他者の個性を理解し、美術を鑑賞する能力と、美術を愛好する心情を養う。	学習プリント	学習プリント	学習プリント
3 学期	1	1	油彩画	油彩の手順や使い方を学び、油彩作品を創る。過去の生徒作品などを参考にして、色彩やマチュールについて自分らしい表現を工夫する。	作品	作品	作品
	2	8	静物	油彩の特性や表現方法を十分に理解し、自分らしい表現を工夫することができる。最終学年にふさわしい完成度の高い作品ができるようにする。	作品	作品	作品
	3	1	鑑賞	他者の個性を理解し、美術を鑑賞する能力と、美術を愛好する心情を養う。	学習プリント	学習プリント	学習プリント

担当者からのメッセージ（学習方法など）

評価は、作品の評価だけではなく、内容の理解度も問われます。1学期の終わりにはテストも実施しますので、説明などはしっかりと聞いて内容の理解に努めましょう。
作品が未完成の場合はできたところまでで採点されます。その分評価は低くなりますので、毎時間計画的に取り組む、完成した作品が提出できるようにしましょう。

科目名	書道芸術		学年	類型・コース	単位数
			3	文系2	2
学習の目標	(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
使用教材	自作プリント				
評価	評価法	作品・作品意図カード・振り返りシートを観点別に評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。 書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	
		b	思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・題材	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	2	オリエンテーション	・書道室や道具の使い方を知る。 ・書体の変遷を知り、「楷書」の定義を知る。 ・硬筆学習の位置づけについて知る。			
	5	3	硬筆の学習① 漢字の学習	・硬筆における漢字の7つのルールを知る。	練習プリント		プリント
		1	・字母を考える。	・字母クイズでひらがなの字母を知る。	練習プリント		プリント
		3	・ひらがなの基本	・硬筆におけるひらがなの5つのルールを知る。			
6		1	硬筆テスト	・漢字・ひらがなの基本を確認する。	テスト		
		1 3	硬筆の学習② 実用的な硬筆 ・封筒のあて名書き ・横書きの書き方	・大学入試を想定した封筒のあて名書きの書式を知る。（文字の配置、御中など） ・志望理由書の書式を利用し、横書きの際のルールやコツを学ぶ。	封筒 提出物		

	7	6	実用書（毛筆） 卒業式看板 作成	・硬筆学習を生かし、毛筆での実用書式を学ぶ。 ・全員の書風を揃えるため、改善点を話し合って完成させる。	個 別 の 提 出 物	完 成 作 品	プ リ ン ト
		4	漢字かな交じ りの書の学習 ① 好きな言葉 を書く	・線質とイメージの関係を知る。 ① 運筆のリズムと線 ② 墨量の変化と作品にもたらす効果 ・多字数作品もまとま方を学ぶ。 ① 文字群を作る ② 構成と余白 ・作品を作る	作品 作品	 作品	プ リ ン ト プ リ ン ト プ リ ン ト
2 学 期	9	10	創作作品制作 日常を彩る 書の作品	・缶バッジ ・スマホケース・スマホホルダー ・トートバッグなど（アンケートにて決定）		各 作 品	プ リ ン ト
	10		漢字かな交じ りの書の学習 ② 画像と書の コラージュ 作品	タブレットで画像に書を入れる。 ・余白の活用 ・イメージを書で表現する ・鑑賞会	書 作 品	完 成 作 品	プ リ ン ト
	11	20	カレンダ ー制作	2か月ごととカレンダーに6種類の作品を貼り付けて 来年度4月はじまりのカレンダーを作る。 ・作品制作 ・裏打ち ・製本作業 ・消しゴム印製作	作品	作品	プ リ ン ト
	12						
3 学 期	1	10	卒業製作 パネル作品 制作	1年間の学習内容を振り返り、卒業制作を行う。 ・書体・書風・語句自由 ・作品制作 ・裏打ち・パネル作り ・観賞会	作品	作品	プ リ ン ト
	2						
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

芸術科書道は、整った文字の美しさだけを追求する授業ではありません。幅広い表現活動としての「書」を味わい、書をとおして「自分らしい表現」が出来るようになることが目標です。基礎的な知識や技能を習得し、今伝えたい思いを表現できるようになりましょう。

令和6年度 家庭科

科目名	ライフデザイン		学年	類型・コース	単位数
			3	文系2	2
学習の目標	・保育の意義や方法、子どもの発達と生活の特徴、子どもの福祉や文化について理解し、関連する技術を身につけ、保育や子育て支援に寄与する資質・能力を養う。 ・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
使用教材	・自主教材プリント ・生活ハンドブック資料&成分表（2年生時使用）				
評価	評価法	評価は、学習の取り組み状況、作品における課題進捗状況、学習プリントの記入状況などとともに総合的に判断して決定します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。豊かな食生活に必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。	
		b	思考・判断・表現	子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして工夫し、創造する能力を身につけている。食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見し、より豊かな食生活を創造することができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。習得した食生活の知識や技術を、家庭で積極的に活用しようとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元名	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	6	保育技術1	・壁面構成 - 学校紹介ポスター制作		作品	作品
	5	3	子どもと子育て	・胎児の成長と発達 ・出産までのマタニティ生活 - マタニティ体験	学習プリント	学習プリント	学習プリント 観察
		2		・乳幼児期の体の成長、発達 - 子どもの視界体験	学習プリント	学習プリント	学習プリント 観察
		3		・乳幼児期の心の成長、発達 - 発達段階に応じた絵本の考察 - 絵本の読み聞かせ	学習プリント	学習プリント レポート	学習プリント 観察
	6	3		・子どもの生活と保育 - 離乳食実習 - 授乳実習	学習プリント	学習プリント レポート	学習プリント レポート
		2		・子どもの生活と遊び - 子ども向けレクリエーション	学習プリント	学習プリント	学習プリント 観察
	7	4	保育技術2	・伝承折り紙 - 折り紙実習	学習プリント	テスト レポート	テスト レポート
		1		・期末考査	期末考査		

2 学期	8 9	12	調理の基本	・食品の衛生と安全 ・包丁の使い方と調味 ・計量と調味 - 計量実習	学習 プリント	学習 プリント テスト	学習 プリント テスト
		3		・食品の選択と下処理 ・盛りつけの基本と食事マナー	学習 プリント	学習 プリント	学習 プリント
	10 11 12	20	調理実習	・調理実習 - 一人分の和食、洋食、お菓子作り - レポート記入	レポート	レポート	レポート 観察
		1		・期末考査	期末考査		
3 学期	1 2 3	10	調理実習	・調理実習のまとめ作成	学習 プリント	学習 プリント	学習 プリント

担当者からのメッセージ（学習方法など）

2年生で履修・修得した『家庭基礎』は、生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を生活者の立場から総合的・体験的に習得し、家庭生活の充実向上を図る能力と態度を育てることを目標に学習しました。本科目では、さらにこの学習を応用・発展させ、高校卒業後の社会生活の中で主体的に生活できる能力を高めるために、実験・実習中心の授業内容とします。実験・実習を通して、自分で考え、行動し、考察する（Plan・Do・See）ことの重要性、周囲と協力することの必要性を学びながら、作品が完成した後の充実感、満足感、喜び、達成感、緊張感を十分に味わって欲しいと思います。机上の学習ばかりではなく、自分が動かないと何も始まらない実習を重ねることで、実践力を身に付けていきましょう。そして、自分の生活に生かしてほしいと思います。なお、提出物の配点が大きいので、必ず提出しましょう。

令和6年度 外国語科

科目名	英語コミュニケーションⅢ		学年	類型・コース	単位数
			3	全員	4
学習の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの5つの能力を養う。				
使用教材	教科書：BIG DIPPER English Communication Ⅲ 副教材：BIG DIPPER English Communication Ⅲ ベーシックノート BIG DIPPER English Communication Ⅲ ワークブック				
評価	評価法	課題考査・定期考査、実技テスト、小テスト、授業課題・提出物、授業態度等を総合して評価します。1学期、2学期、3学期の成績を総合的に判断して、年間の学習成績とします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	英語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きについての知識を深め、その知識を土台に、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	知識および技能を活用して課題を解決するなどのために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることにむけた粘り強い取組の中で自らの学習を調整しようとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	48	L1.Is the Meat Real or Fake? L2.Let's Have a Healthy Workout L3.My Opinion of Zoos	例示 追加 討論でよく使う表現	小テスト	小テスト	小テスト
	5		L4.The History of Ekiben L5.Three Tips for Maintaining a Conversation L6.The History of Recorded Music L7.Online Word-of-Mouth	言い換え表現 列挙 時間的順序			
	6		L8.After the Flowers L9.Hot Springs at Home and Abroad L10.Kintsugi L11.Art on Display L.12 Can You Manage Your Anger?	レストランの口コミ情報サイトから、必要な情報を読み取る 因果関係 対比 日本の伝統技術 博物館の案内文から必要な情報を読み取る 譲歩	中間考査 小テスト スピーチ発表	中間考査 小テスト スピーチ発表	振り返りシート 小テスト スピーチ発表
	7		L.13 crowdfunding	資金を得る新しい方法「クラウドファンディング」	期末考査	期末考査	振り返りシート

2 学期	9	72	L14. A New Orchestra and a New Harmony	新聞記事を読むために	課題 考查	課題 考查	課題 考查
	10		L15. Instant Replay in Sports	Vocabulary for Activities [1] スポーツ	小テスト	小テスト	小テスト
			L16. Endangered Languages	Vocabulary for Activities [2] 言語・文化			
			L17. Is This the Right Way to Protect the Environment?	Vocabulary for Activities [3] 環境	中間 考查	中間 考查	中間 考查
	11		L18. The Shoe That Grows	Vocabulary for Activities [4] 教育・社会問題	小テスト	小テスト	小テスト
			L19. Fake News	Vocabulary for Activities [5] メディア・倫理	スピー ー キ ン グ テ ス ト	スピー ー キ ン グ テ ス ト	スピー ー キ ン グ テ ス ト
12	L20. Human Society and Infectious Diseases	Vocabulary for Activities [6] 健康・歴史	期末 考查	期末 考查	振り 返 り シ ー ト		
3 学期	1	20	L. 21 顔認識システムで変わる現代の生活や社会	Having a Discussion ディスカッションの注意点			
	2		L. 22 元黒人奴隷にして奴隷解放運動家ハリエット・タブマンの生涯	Writing a Summary [1] 要約文を作ろう	小テスト	小テスト	小テスト
			L. 23 海外から日本に来た人たちに「地震災害」についてプレゼンする	Question-and-Answer Session 質疑応答をしよう			
	3	L. 24 人は科学の力でどれだけ長く生きることができるのか	Writing a Summary [2] 必要な内容に絞ろう／意見と事実を区別しよう	期末 考查	期末 考查	振り 返 り シ ー ト	

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・予習・復習を習慣づけよう。
- ・授業に集中しよう。
- ・ペアやグループ学習に積極的に参加しよう。
- ・文構造や文法事項を理解し、フレーズごとに前から後ろへ英文を理解できるようになろう。
- ・積極的に発表や質問をしよう。
- ・提出物は不備のないように仕上げ、期限をしっかりと守って提出しよう。

科目名	論理・表現Ⅲ		学年	類型・コース	単位数
			3	全員	2
学習の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの3つの能力を養う。				
使用教材	教科書：「BIG DIPPER English Logic and Expression Ⅱ」（数研出版） 「MY WAY English Logic and Expression Ⅲ」（三省堂） 副教材：「BIG DIPPER ENGLISH GRAMMAR in 25 STAGES」（数研出版） 「BIG DIPPER English Logic and Expression Ⅱ ワークブック」（数研出版） 「整理と演習 英文法」（啓林館） 「BIG DIPPER 高校英語」（数研出版）				
評価	評価法	予習の状況、授業中の態度、小テスト、パフォーマンステスト、提出物等を加味し、定期考査を中心に、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度についての3つの観点から総合的に評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを伝えあうための基本的な語句や、論理の構成、展開を理解している。	
		b	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることにむけた粘り強い取組の中で自らの学習を調整しようとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目 ・単 元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	24	BIG DIPPER English Logic and Expression II Lesson 10 My New Hiking Boots	比較の基本用法について学ぶ。「同じくらい～」「より～」「X倍の～」「～すればするほど…」などの表現を学ぶ。学んだ比較表現を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート
	5		Lesson 11 The Yangtze River	比較の用法について学ぶ。「最も～」「何番目に～」「他のどの～よりも…」などの表現を学ぶ。学んだ比較表現を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート
	6		Lesson 12 My Sister' s Job	関係代名詞の基本用法（限定用法）、名詞に説明を加える概念、非制限用法、関係代名詞 what について学ぶ。学んだ関係代名詞を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート
			Lesson 13 In Kansas City	関係代名詞 what 、関係副詞、関係副詞の継続用法（非制限用法）について学ぶ。学んだ関係詞を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート
			Lesson 14 Dreaming of Space	仮定法過去・仮定法過去完了について学ぶ。学んだ仮定法の用法を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート
	7		Lesson 15 An Android Like you	願望を表す用法、仮定法の重要表現、if 節の代わりになる表現について学ぶ。学んだ仮定法の用法を使って、書く・話すというアウトプット活動につなげる。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート
	8	パフォーマンステスト 1学期の復習 夏休みの課題	1学期に学んだ表現についてパフォーマンステスト（スピーキング）を行う。	パフォーマンステスト			
					課題 考査	課題 考査	課題 考査

2 学 期	9	36	MY WAY Logic and ExpressionⅢ Lesson1 Survey Results	さまざまな種類の動詞の使い方を理解する。練習問題を通じて動詞のパターンを定着させ、ライティングスピーキングでの自己表現活動につなげる。	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート	
	10		Lesson 2 Writing an Email	時制について理解する。練習問題を通じてそれぞれの時制の表現方法を定着させ、ライティングやスピーキングでの自己表現活動につなげる。	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート	
			Lesson 3 Writing a Blog	助動詞のそれぞれの意味や用法を学ぶ。文脈に応じた適切な助動詞の使い分けを学び、ライティングやスピーキングでの自己表現活動につなげる。	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート	
			Lesson 4 Describing Activities	不定詞・動名詞の基本用法の使い方を学ぶ。不定詞動名詞の使い分けについても理解した上で、ライティングやスピーキングでの自己表現活動につなげる。	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート	
			Lesson 5 Suggesting What to Buy	分詞の使い方を学ぶ。さらに補語になる用法や分詞構文について学ぶ。学んだ分詞を使って、ライティングやスピーキングでの自己表現活動につなげる。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート	
	11		Lesson 6 Making a Proposal	動詞の比較変化、原級・比較級・最上級の基本用法や慣用表現などについて学ぶ。学んだ比較級の用法を使って、ライティングやスピーキングでの自己表現活動につなげる。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート	
			Lesson 7 Making a Speech	関係代名詞の基本用法（限定用法）、名詞に説明を加える概念、非制限用法、関係代名詞 what 関係副詞について学ぶ。学んだ関係詞を使って、ライティングやスピーキングでの自己表現活動につなげる。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート	
			12	Lesson 8 Writing an Invitation	仮定法過去・仮定法過去完了、願望を表す用法、仮定法の重要表現、if 節の代わりになる表現について学ぶ。学んだ仮定法の用法を使って、ライティングやスピーキングでの自己表現活動につなげる。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート
				パフォーマンステスト 冬休みの課題	2学期に学んだ表現についてパフォーマンステスト（ライティング）を行う。	パフォーマンステスト		
					課題 考査	課題 考査	振り 返り シート	
3 学 期	1	10	Lesson 9 Suggesting a Solution	集合名詞、仮主語、不可算名詞など、名詞・代名詞のさまざまな用法について学ぶ。学んだ名詞・代名詞の用法を使って、ライティングやスピーキングでの自己表現活動につなげる。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート	
	2		Lesson 10 Talking about the Future	前置詞・接続詞のさまざまな用法について学ぶ。学んだ用法を適切に使って、ライティングやスピーキングでの自己表現活動につなげる。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート	
	3		パフォーマンステスト 1年間のまとめ	1年間の総まとめとしてパフォーマンステスト（ライティング）を行う。	パフォーマンステスト			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・予習・復習を習慣づけよう。
- ・繰り返し音読をしたり問題を解くことで、学習内容を定着させよう。
- ・積極的に発表や質問をしよう。
- ・仲間と共に課題を解決しよう。
- ・提出物は期限を守って提出しよう。

科目名	英語演習		学年	類型・コース	単位数
			3	文系１・２・３、理系（選択）	2
学習の 目 標	多様なジャンルの英文に親しんで知識を増やしなが ら、読解力を身に着ける。 多様な場面設定に適した表現力を身に着ける。				
使 用 教 材	「Elixir 4」（啓隆社）、「Jet Reading」（数研出版）、「BIG DIPPER 高校英語」（数研出版）				
評 価	評価法	予習の状況、授業中の態度、小テスト、提出物等を加味し、定期考査を中心に、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度についての３つの観点から総合的に評価する。			
	評価 観点 の趣旨	a	知識・技能	多様なジャンルの英文の内容について、情報や考え、気持ちなどを読み取ったり伝え合ったりするための基本的な語句や、論理の構成、展開を理解している。	
		b	思考・判断・表現	知識および技能を活用して概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを理解している。また理解した内容を土台に適切に表現したり伝え合ったりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることにむけた粘り強い取組の中で自らの学習を調整しようとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの３段階）および評定（１～５の５段階）にまとめます。				

期	月	時 数	学習項目 ・ 単 元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1 学 期	4	24	Lesson1 「人物（中村哲氏）」	人物に関する英文を正確に読み取る。 紹介文を書く。 進行形・完了形を理解し、活用する。	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート 小テスト
	5		Lesson2 「文明（ナスカ文明）」	文明に関する英文を正確に読み取る。 状況に合わせた英文を書く。 助動詞を理解し、活用する。	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート 小テスト
			Lesson 3 「生活（看護師長のエッセイ）」	生活に関する英文を正確に読み取る。 日記を書く。 受動態を理解し、活用する。	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート 小テスト
			Lesson 4 「文化（ストウーピング）」	文化に関する英文を正確に読み取る。 日記を書く。 不定詞を理解し、活用する。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート 小テスト
	6		Lesson 5 「環境（地球温暖化）」	環境に関する英文を正確に読み取る。 情報をもとに会話を完成させる。 動名詞を理解し、活用する	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート 小テスト
			Lesson 6 「生活（指の長さとの性格の関係）」	生活に関する英文を正確に読み取る。 マニュアルを英訳する。 分詞を理解し、活用する。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート 小テスト
	7		Lesson 7 「物語（小児科医マサト氏）」	物語に関する英文を正確に読み取る。 紹介文を書く。 分詞を理解し、活用する	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート 小テスト

2 学 期	9	36	Lesson8 「技術（ドローン技術）」	技術に関する英文を正確に読み取る。 手紙を書く。 準動詞を理解し、活用する。	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート 小テスト
	10		Lesson9 「動物（サルの思考過程）」	動物に関する英文を正確に読み取る。 説明文を書く。 関係詞を理解し、活用する	中間 考査 小テスト	中間 考査 小テスト	振り 返り シート 小テスト
			Lesson10 「生活（第一印象とハロー効果）」	生活に関する英文を正確に読み取る。 紹介文を書く。 関係詞を理解し、活用する。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート 小テスト
	11		Lesson11 「物語（ドレスメーカーのロビンソン氏）」	物語に関する英文を正確に読み取る。 調べた内容をまとめる。 比較を理解し、活用する。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート 小テスト
			Lesson12 「人物（作曲家ジョン・ケージ氏）」	人物に関する英文を正確に読み取る。 調べた内容をまとめる。 比較を理解し、活用する。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート 小テスト
	12		Lesson 13 「文化（ハラルフード）」	文化に関する英文を正確に読み取る。 体験談を書く。 仮定法を理解し、活用する。	期末 考査 小テスト	期末 考査 小テスト	振り 返り シート 小テスト
3 学 期		10	Lesson 14 「言語（英語学習）」	言語に関する英文を正確に読み取る。 発言内容を要約する。 仮定法を理解し、活用する。	提出 課題 小テスト	提出 課題 小テスト	振り 返り シート 小テスト
	1		Lesson 15 「物語（ハンバーガー販売）」	物語に関する英文を正確に読み取る。 良い点と悪い点をまとめる。 接続詞を理解し、活用する。	提出 課題 小テスト	提出 課題 小テスト	振り 返り シート 小テスト
	2						
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- * 予習・授業・復習の適切なサイクルを確立しよう。
- * 授業に集中しよう。
- * 英文を正しく、素早く読み取るための **Reading Skill** を身に着けよう。
- * 積極的に発表や質問をしよう。
- * 提出物は期限を守って提出しよう。